

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高野昭夫(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内 容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	カベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生物学		作業療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	永井 衛（実務経験有）
授業の概要				
生物学は生命現象を研究する自然科学であり、生物としてのヒトを理解するうえで重要な学問である。本科目では生物の最小単位である細胞から、生体内の化学反応、遺伝情報の伝達と発現、生殖と発生、生体内の調節作用、刺激の受容と行動などについて授業を進めていく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
授業各回の内容にある生命現象について理解する。 ヒトのからだで見られる生命現象を客観的に捉えることができる。 「生物学」を学ぶことで診療にかかわる広い視野を身につける。				
回	テーマ	内 容		
1	1章 生命体のつくりとはたらき（1）	細胞の構造とはたらき		
2	1章 生命体のつくりとはたらき（2）	細胞の化学成分、細胞膜の輸送、細菌とウイルス		
3	2章 生体維持のエネルギー（1）	代謝と酵素		
4	2章 生体維持のエネルギー（2）	光合成、呼吸		
5	3章 細胞の増殖と体のなりたち	【確認テスト①】 細胞分裂、減数分裂		
6	4章 遺伝情報とその伝達・発現（1）	遺伝の法則、ヒトの遺伝		
7	4章 遺伝情報とその伝達・発現（2）	DNAの構造、セントラルドグマ		
8	4章 遺伝情報とその伝達・発現（3）	ヒトゲノム、遺伝子操作		
9	5章 生殖と発生（1）	【確認テスト②】 無性・有性生殖、カエルの発生過程		
10	5章 生殖と発生（2）	ヒトの発生過程		
11	6章 個体の調節（1）	内分泌腺とホルモン、血糖量調節、体温調節		
12	6章 個体の調節（2）	腎臓・肝臓のはたらき、免疫系のはたらき		
13	6章 個体の調節（3）	【確認テスト③】 免疫と病気		
14	7章 刺激の受容と行動（1）	受容体の構造とはたらき、神経系の情報伝達		
15	7章 刺激の受容と行動（2）	興奮の伝導と伝達、筋肉の構造と収縮		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 確認テスト・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシー I (入門)		作業療法科／1年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	木下僚介 (実務経験あり)
授 業 の 概 要				
・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。 ・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 ・PC操作やタッチタイピングに慣れる。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会におけるモラルや情報管理、リスク等について説明できる。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの基礎知識		
2	情報リテラシー概論	情報の取り扱いとリスク、Web上のコミュニケーション		
3	PCの基本操作	PC操作の基本、タイピング技術の向上に向けて		
4	Wordの活用	Wordの基本操作		
5	Excelの活用	Excelの基本操作		
6	レポート作成の基本	表紙、本文の作り方、引用文献の表記法		
7	レポート作成の基本	文献検索をしてみよう		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		確認テスト 課題・レポート	50.0% 50.0%	公欠以外の理由による 課題の提出期限延長は 認めない。 提出できなかった場合 は、その課題分の得点 は0点とする。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシーⅡ（基礎）		作業療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
情報リテラシーについての理解を深め、情報を適切に活用できるようになることを目指す。 そのために、実際に様々な情報に触れながら、他者と意見交換して、情報を多角的な視点から収集・分析・考察する経験を積んでいく。また、それに付随して必要な基本的なPC操作技術の習得を目指す。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・情報リテラシーに対する理解を深め、知識を説明したり、自分の考えを言語化することができる。 ・必要な資料やデータを他者と協力して適切に収集したり、活用することができる。 ・様々な情報に触れる中で、感想・疑問・意見などをもつことができる。 ・取り組んだ課題について、チームとして意見交換しながら整理し、発表することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	データの活用	データベースの操作・集計・分析（Excel）		
2	Web上のコミュニケーション	Web上のコミュニケーションの利点とリスク		
3	情報収集と分析	情報の信頼性・信ぴょう性、様々な検索方法		
4	伝わりやすい資料の作成	スライド作成（PowerPoint）		
5	プレゼンテーション①	情報の伝達（グループ発表）		
6	生成AIの活用	生成AIの活用とリスク		
7	プレゼンテーション②	情報の伝達（グループ発表）		
8	情報リテラシーを高めるために	理学療法士・作業療法士に求められる情報リテラシー		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題提出・発表 確認テスト	50.0% 50.0%	

作成者: 丁子雄希

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
統計学		作業療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	丁子雄希（実務経験有）
授 業 の 概 要				
近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・統計学の必要性について説明できる。 ・取り扱うデータの尺度について理解できる。 ・正規分布について理解できる。 ・研究で用いる必要な統計手法を選択できる。				
回	テ ー マ		内 容	
1	統計の基礎			
2	尺度		名義・順序・間隔・比率尺度	
3	検定			
4	t 検定		対応の有無	
5	Mann Whitney検定			
6	カイ2乗検定			
7	3群間の比較		分散分析とフリードマン検定	
8	相関と多重比較検定		相関分析とロジスティック回帰分析	
教科書・教材			評価基準	評価率
すぐできる!リハビリテーション統計—データのみかたから検定・多変量解析まで（統計ソフト付）改定第2版			課題・レポート	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ科学		作業療法科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川等史（実務経験有）
授 業 の 概 要				
身体活動が心身の健康を維持・増進するために効果的であることの知識を身に受け、実習を通して、自己の心身の状態と健康についての意識を高める。また、子ども、高齢者、障がい者など特性に配慮してスポーツを楽しむことを支援するための知識と技術を身につける。高齢者や障がい者がスポーツを安全に実践できるように運動の質や量を調整し、道具の工夫やルール及びe-スポーツについても学ぶ。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・ 自己の心身の状態を理解し、実践する運動の質や量を調整できる ・ 支援者として他者の運動に関わることができる ・ 障がい者がスポーツを楽しめる競技を知り、ルール等の工夫ができる ・ 他者と協業を図りながらグループ活動が行える				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション・総論 ルールと道具	講義の進め方及び運動の基礎について 風船バレーボールを例に		
2	運動の実際	風船バレーボールを通しての実践		
3	運動の実際	風船バレーボールを通しての実践		
4	ルールと道具	バドミントンを例に		
5	運動の実際	バドミントンを通しての実践		
6	運動の実際	バドミントンを通しての実践		
7	ルールと道具	ラダーゲッターを例に		
8	運動の実際	ラダーゲッターを通しての実践		
9	運動の実際	ラダーゲッターを通しての実践		
10	ルールと道具	ボッチャを例に		
11	障害者スポーツの実際	ボッチャのルールと実践		
12	障害者スポーツの実際	ボッチャを通して実践		
13	e-スポーツの実際	e-スポーツのルールと実践		
14	e-スポーツの実際	e-スポーツの実践		
15	e-スポーツの実際	e-スポーツを通して介護予防を考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		実習・実技評価 レポート課題	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		作業療法科/1年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務				
授業終了時の到達目標				
食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう？カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青壮年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係 六大栄養素		
5	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
6	調理実習②	米飯とみそ汁		
7	調理実習③	サラダ		
8	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収など基礎栄養学を理解した上で傷病者の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。 ・ライフステージの栄養学、特に高齢期の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。 ・生活習慣病(糖尿病など)の基本的栄養管理を習得する。				
回	テーマ	内 容		
1	生化学・栄養学は面白い	なぜ生化学を学ぶのか、なぜ栄養学を学ぶのか リハビリテーションに活かす生化学・栄養学		
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	元素・元素・分子、化学結合 同化・異化		
3	五大栄養素、たんぱく質 1) たんぱく質とアミノ酸	蛋白質の分類・機能 アミノ酸の分類・機能		
4	五大栄養素、たんぱく質 2) 酵素・ホルモン	酵素の分類・作用機構 ホルモンの分類・作用機序		
5	五大栄養素、炭水化物 糖質の代謝	糖質の分類、TCAサイクル、糖新生		
6	五大栄養素、脂質 脂質の代謝	脂質の分類、脂肪酸の分類、 β 酸化		
7	五大栄養素、無機質	無機質の種類・機能		
8	五大栄養素、ビタミン	ビタミンの種類・機能 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン		
9	栄養生理学 消化と吸収	消化器官、消化過程、 栄養素の吸収過程		
10	運動と栄養	運動とたんぱく質代謝、運動と脂質代謝		
11	リハビリテーションと栄養	リハビリテーションと栄養の関連性 リハビリテーション栄養における多職種連携		
12	栄養評価 栄養と摂食嚥下	低栄養と過栄養、栄養アセスメント、 摂食嚥下のメカニズム		
13	主な病態の栄養管理	糖尿病の栄養管理 虚弱高齢者の栄養管理		
14	静脈・経腸栄養法	栄養ケアマネジメント 栄養療法の選択、経腸栄養法、静脈栄養法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハベーシック生化学・栄養学 第2版 内山靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版株式会社		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境コーディネーター論		作業療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶 直美（実務経験有）
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格する				
回	テーマ	内 容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	一問一答 要点 解説		
3	第1章第2節第3節	一問一答 要点 解説		
4	第2章	一問一答 要点 解説		
5	第2章	一問一答 要点 解説		
6	第3章	一問一答 要点 解説		
7	第3章	一問一答 要点 解説		
8	第4章	一問一答 要点 解説		
9	第4章	一問一答 要点 解説		
10	第5章	一問一答 要点 解説		
11	過去問	第45回 試験・解答解説		
12	過去問	第43回 試験・解答解説		
13	過去問	第42回 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネーター3級改訂6版テキスト ・要点まとめ＋よく出る問題 成美堂出版 ・副教材：過去問		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	不合格の場合は、 再試験

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働くか見ていく。そして、自分について心理的分析してみて、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後にはメンタルヘルスについて学び、後期の臨床心理学の深い学びに繋げていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション			
2	心理学とは何か			
3	感じるころ			
4	見るころ			
5	学習について			
6	動機づけ			
7	考えるころ			
8	自己理解1	私とは?1		
9	自己理解2	私とは?2		
10	心理学からみた恋愛			
11	心理学からみた恋愛2			
12	対人魅力と対人関係			
13	メンタルヘルスについて1			
14	メンタルヘルスについて2			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害福祉論		作業療法科／4年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	小島、白瀬、他（実務経験あり）
授 業 の 概 要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟、梶、他(実務経験有)
授業の概要				
主に医療場面における専門用語や会話で使用される英語を単語レベルから英語表現までを演習していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語について理解できること 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について理解できること 3. 英語で体の状態などを質問、返答できる英語会話が理解できること 4. 中学・高校で学習した内容を復習し、英語で事項紹介できること				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	病院で使われている英語を調べる 今まで学習した英単語の復習します		
2	病院にある英語と身体部位の英語	医療現場にある英語や英語表記を考えてみます		
3	身体各部の英語	身体の各部位の英語表現を演習します 小テスト		
4	中学・高校の英語の復習	自己紹介に必要な中学・英語で学んだ英語を復習します		
5	英語で自分を紹介する	英語で自分を紹介してみます。レポート作成		
6	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
7	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 2	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
8	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 3	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
9	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 4	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
10	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 5	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
11	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 6	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
12	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 7	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
13	理学療法・作業療法・リハビリテーション場面の英語会話 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語会話を学習します		
14	理学療法・作業療法・リハビリテーション場面の英語会話 2	自分が海外でケガをした時に、医師にどのように症状や望と治療を英語で説明できるかをレポート作成してみます。		
15	まとめ	レポートを返却します		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料を配布します		プレゼンテーション 小テスト レポート 出席	40.0% 10.0% 40.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬, 木下, 護摩堂, 中川, 竹内
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	コミュニケーションについて	なぜコミュニケーションを学ぶのか コミュニケーションについて考えてみる		
2	社会で働くために必要な力	接遇5原則(身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度)		
3	自分を知る	対人援助者として自己成長に必要な自身の課題を明確にする。		
4	相手を知る	「みる」「きく」「みとめる」について考えてみよう		
5	話す技術「話題と会話、質問」	人と話をする際に必要となる「話題提供」「質問の仕方」などについて考えてみよう		
6	電話・メール・手紙	電話のかけ方、メールの書き方、手紙の書き方について学ぶ		
7	ほうれんそう、クッション言葉	実習における指導者との円滑なコミュニケーションのために考えてみよう		
8	まとめ	お礼状フィードバック・コミュニケーションGW(体験学習)		
9	良好な関係作り	他学年との交流会		
10	言語化力を養う	言語化する技術、伝える技術		
11	実習生として介入する	自己紹介、インフォームドコンセント、車いす介助、面談		
12	アサーション・SSTとは	自己主張と思いやりを学ぶ。社会生活を円滑にする対人技能について学ぶ		
13	コミュニケーションスキルと尺度と実践	コミュニケーションスキルを知る。コミュニケーションの尺度評価を実施。非言語的コミュニケーションについて学ぶ		
14	多職種連携	連携に必要な「はなす力」「きく力」		
15	積極的なコミュニケーション	コミュニケーションの大切さを再確認しよう		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅰ（骨学）		作業療法科／1年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	竹内 佑（実務経験有）
授業の概要				
人の根本である骨の構造・関節の構造について取りあげる。 骨模型を用い、立体的に人体の構造を学ぶ。 解剖学Ⅱ（筋学）の起始・停止・作用の理解に必要な知識を習得する。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・解剖学の目的、解剖学的位置、および方向と位置を示す解剖学的用語を理解する ・解剖学的用語を使って身体部位を表現する ・骨の構造や骨全体を把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に知る				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	総論・骨の構造		
2				
3	胸郭	胸骨・肋骨		
4				
5	上肢の骨・上肢帯	鎖骨・肩甲骨		
6				
7	上肢の骨・自由上肢骨	上腕骨・橈骨・尺骨		
8				
9	上肢の骨・自由上肢骨	手根骨・中手骨・指骨		
10				
11	中間試験	口頭試問①		
12				
13	下肢の骨	骨盤		
14				
15	下肢の骨・自由下肢骨	大腿骨・膝蓋骨		
16				
17	下肢の骨・自由下肢骨	脛骨・腓骨		
18				
19	下肢の骨・自由下肢骨	足根骨・中足骨・趾骨		
20				
21	脊柱	椎骨の基本的形態・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨		
22				
23	中間試験	口頭試問②		
24				
25	頭蓋	脳頭蓋・顔面頭蓋		
26				
27	発生	各胚葉からの分化		
28				
29	骨の連結	関節の基本構造		
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村 巖 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版』医学書院		①定期試験、口頭試問 ②授業へ取り組む姿勢（個人ワークとグループワーク） ③授業内振り返りテスト ④ミニッツペーパー	①50% ②20% ③15% ④15%	合計が60%未満の場合は、再試験を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ（筋学）		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山本政孝（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、模型触診、動画視聴、筋の描写・色塗り、骨および骨格筋の触診を通して、骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経を理解することを目指す。				
授業終了時の到達目標				
- 筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用を選択・列記できる。 - 骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経が選択・列記できる。				
回	テーマ	内 容		
1	概論	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の支配神経		
2	上肢帯の筋	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
3	上肢帯の筋	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	上腕の屈筋群	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋		
5	上腕の伸筋群	上腕三頭筋、肘筋		
6	前腕の屈筋群	円回内筋、捻側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋		
7	前腕の屈筋群	円回内筋、捻側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋		
8	前腕の伸筋群	腕橈骨筋、長捻側手根伸筋、短捻側手根伸筋、橈指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
9	前腕の伸筋群	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋		
10	手内筋群	手内在筋		
11	上肢筋のまとめ・確認テスト	上肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
12	上肢筋のまとめ・確認テスト	上肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
13	内寛骨筋群	腸腰筋（腸骨筋・大腰筋）、小腰筋		
14	外寛骨筋群	大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋		
15	外寛骨筋群	梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
16	大腿の伸筋群	縫工筋、大腿四頭筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋、中間広筋、膝関節筋		
17	大腿の伸筋群	縫工筋、大腿四頭筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋、中間広筋、膝関節筋		
18	大腿の屈筋群	大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋		
19	大腿の内転筋群	恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、外閉鎖筋		
20	下腿の伸筋群	前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母足趾伸筋		
21	下腿の屈筋群	下腿三頭筋（腓腹筋・ヒラメ筋）、腓窩筋、長趾屈筋、長母指屈筋、後脛骨筋		
22	下腿の屈筋群・腓骨筋群・足の筋	長腓骨筋、短腓骨筋、足の筋		
23	下肢筋のまとめ・確認テスト	下肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
24	下肢筋のまとめ・確認テスト	下肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
25	頭部の筋	表情筋群、咀嚼筋群		
26	頭部の筋	浅頸筋、側頸筋、舌骨筋群、深頸筋群		
27	胸部の筋	浅胸筋群、深胸筋群、横隔膜、前腹筋群、側腹筋群、後腹筋群、		
28	背部の筋	浅背筋群、棘肋筋群、固有背筋群、後頸下筋群		
29	頭部・体幹筋のまとめ・確認テスト	頭部・体幹筋のまとめ・確認テスト		
30	解剖学Ⅱのまとめ	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用の復習、骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第6版 医学書院		①期末試験 ②課題・確認テスト ③授業態度	50.0% 40.0% 10.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅲ（内臓・脈管学）		作業療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮川孝芳（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内部障害の病態を理解するため循環器、呼吸器、消化器、内分泌、泌尿器の構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・循環器系：心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する ・呼吸器系：ガス交換に関わる肺と、発生に関わる喉頭について理解する ・消化器系：胃、腸、肝臓、および嚥下にかかわる構造体を理解する ・泌尿器系：腎臓および排泄に関わる構造体を理解する ・内分泌系：各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその主要作用を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	総論（人体の構成）	細胞、組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）、器官の役割や特徴		
2	循環器系	血管系、心臓の位置、心臓の区分、心臓の弁、心臓壁の構成		
3	循環器系	心膜、刺激伝導系の構成、冠動脈、体循環、肺循環		
4	循環器系	上行大動脈～各種大動脈、静脈系、門脈系		
5	循環器系	リンパ系 循環器系総復習		
6	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭、喉頭腔		
7	呼吸器系	気管と気管支、肺		
8	呼吸器系	肺の構造の理解、胸膜と縦郭		
9	循環器・呼吸器の大復習会	各グループに分かれて知識を共有、アウトプット・インプットする		
10	循環器・呼吸器系の中間テスト解説	循環器、呼吸器の確認テスト及び解説を行う		
11	消化器系	消化器の全体像、口腔～胃		
12	消化器系	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸（小腸と大腸について）		
13	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		
14	内分泌系	ホルモンと標的器官		
15	期末テスト対策	前期で学習した事項の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第6版 医学書院		予習テスト 中間テスト 期末テスト	10.0% 30.0% 60.0%	

作成者:山本政孝

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅳ (神経学)		作業療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	山本、竹中 (実務経験有)
授業の概要				
中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。 2. 脳の構造と働きについて概説できる。 3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	神経系総論	神経系の区分		
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成		
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成		
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生		
5	脊髄	脊髄の外形と横断面		
6	脳幹	延髄		
7	脳幹	橋		
8	脳幹	中脳、網様体		
9	小脳	小脳の外形と区分		
10	小脳	小脳の入出力と機能		
11	大脳	間脳		
12	大脳	大脳半球		
13	大脳	大脳皮質と髄質		
14	大脳	大脳皮質の機能局在		
15	大脳	大脳基底核		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	牛丸 翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器)の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
- 血液の機能を理解できる - 循環器系の機能を理解できる - 呼吸器系の機能を理解できる - 腎・泌尿器の機能を理解できる - 消化と吸収を理解できる - エネルギーの生成を理解(栄養と代謝) - 骨格筋の収縮メカニズムを理解する				
回	テーマ	内 容		
1	生命現象と人体	生理学とは 組織、器官、器官系、人体におけるエネルギー産生		
2	生命現象と人体	ヒトがヒトらしく生きられるために 体温		
3	血液(1)	血液の組成と機能 赤血球 白血球 血小板 血漿 血液型		
4	血液(2)	血液の組成と機能 赤血球 白血球 血小板 血漿 血液型		
5	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能(細胞膜、核、細胞小器官)、静止膜電位と活動電位		
6	細胞の機能と運動生理のリンク	細胞の構造と機能の理解を深めヒトが活動するためにどのように関わっているかを理解する		
7	細胞・血液総復習会	細胞や血液の機能が正常に働かない場合どんな風になってしまうのか? グループワークで確認してみよう		
8	心臓と循環(1)	心臓の働き、全身の循環経路、血液の拍出と血圧		
9	心臓と循環(2)	血圧を規定する因子と心機能曲線を理解する		
10	心臓と循環(3)	臓器循環		
11	心臓と循環(4)	刺激伝導系と心電図		
12	心臓と循環(5)	刺激伝導系と心電図		
13	呼吸とガスの運搬(1)	外呼吸と内呼吸		
14	呼吸とガスの運搬(2)	呼吸運動 呼吸気量		
15	呼吸とガスの運搬(3)	ガス交換とガスの運搬		
16	呼吸とガスの運搬(4)	呼吸の調節、病的呼吸		
17	循環器・呼吸器の働きを復習	循環器・呼吸器はどのように関与しながらヒトの体を支えているのか考える グループワーク		
18	中間テスト 解説	循環器・呼吸器の復習テストを実施し、習熟度が高まっていない部分の補填を行う		
19	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造と役割		
20	尿の生成と排泄(2)	腎臓の役割(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の補足も含め)		
21	腎臓の大復習会	腎臓の働きがヒトの体をどのように支えているのか考えるグループワーク		
22	消化と吸収	消化器の役割 咀嚼と嚥下 食道における食物輸送 胃の役割と消化		
23	消化と吸収	十二指腸における消化 空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
24	消化と吸収	大腸の役割 肝臓の役割		
25	消化と吸収の大復習会	消化と吸収の働きがヒトが運動するさいにどのように関与しているかを考える グループワーク		
26	筋と骨	筋の分類、骨格筋(骨格筋の構造、神経による骨格筋の支配、骨格筋の興奮収縮連関、骨格筋の収縮)		
27	筋と骨	骨格筋(骨格筋繊維の種類、筋肥大と萎縮、筋紡錘とGolgi臓器、筋電図)		
28	筋と骨	心筋、平滑筋、骨、理学・作業療法との関連		
29	筋と骨の大復習会	筋と骨の知識がヒトが動く時にどのように関与しているかを考える グループワーク		
30	総復習	前期授業の重要ポイントを総復習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 生理学第6版 医学書院		中間テスト 授業内ポイント 期末テスト	20.0% 20.0% 60.0%	

作成者:牛丸翔太

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ		作業療法科/1年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	牛丸翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象となる患者様の全身に及ぶ生理的な反応を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・呼吸・循環・腎代謝系のつながりを理解した上で、運動生理演習を通してより習熟度を高める ・神経の興奮、神経の構造から働きを学習し、神経系リハビリテーションにおける礎を築く ・内分泌系が全身の調整にどのように関わっているか説明できる				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
2	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
3	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
4	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
5	運動生理	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源		
6	運動生理	運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、筋力の性差と加齢変化		
7	運動生理演習①	運動に伴う全身の変化を捉える		
8	運動生理演習②	運動に伴う全身の変化を捉える		
9	神経の興奮伝導と末梢神経①	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、跳躍伝導		
10	神経の興奮伝導と末梢神経②	末梢神経の種類、神経線維の分類、脳神経、自律神経		
11	神経の興奮伝導と末梢神経③	シナプスにおける興奮伝達、神経伝達物質の種類、神経系のリハビリテーションの紹介		
12	中枢神経系①	中枢神経系とは		
13	中枢神経系②	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系		
14	中枢神経系③	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系		
15	中枢神経系④	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系		
16	中枢神経系⑤	中枢神経系のリハビリテーションとの関連		
17	感覚①	感覚とは		
18	感覚②	感覚と伝導路		
19	感覚③	感覚と伝導路		
20	内分泌①	内分泌機能とホルモン、ホルモンの役割、ホルモンの作用		
21	内分泌②	ホルモンの種類と作用		
22	内分泌③	ホルモンの種類と作用		
23	内分泌④	ホルモンの種類と作用、リハビリテーション		
24	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
25	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
26	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
27	運動生理演習③	運動に伴う全身の変化を捉える		
28	運動生理演習④	運動に伴う全身の変化を捉える		
29	後期総復習	期末テスト対策のため、後期授業の復習を行う		
30	後期総復習	期末テスト対策のため、後期授業の復習を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版		期末試験 課題レポート・授業点	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学 I		作業療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	護摩堂・竹内(実務経験有)
授業の概要				
身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 ・運動分析、動作分析を理解できる。 ・生活力学が理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、総論			
2	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
3	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靱帯		
5	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯の筋、肩関節の筋		
6	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	肩甲骨の動き		
7	上肢帯と肩関節での上肢の運動④	上肢帯と肩関節での上肢の動き		
8	肘関節と前腕の運動①	関節と靱帯		
9	肘関節と前腕の運動②	肘関節の筋、肘関節における前腕の動き		
10	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靱帯		
11	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動		
12	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン		
13	手関節と手の運動④	手の機能姿勢、手の変形		
14	顔面および頭部の運動	顔面・頭部の筋、動き		
15	運動学習			
16	体幹の運動①	頸椎の運動		
17	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動		
18	体幹の運動③	腰椎の運動		
19	下肢帯と股関節の運動①	関節と靱帯		
20	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
21	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
22	膝関節の運動			
23	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
24	下肢帯と下肢の運動			
25	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
26	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
27	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
28	歩行と走行②	運動力学的分析		
29	呼吸・エネルギー代謝			
30	運動発達			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学(第6版) 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	合計が60%未満の場合は、再試験を実施します。

作成者: 竹内 佑

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		作業療法科/2年	2025/前期	演習・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	竹内 佑 (実務経験有)
授業の概要				
運動学で学んだ正常なヒトの身体運動の知識をもとに、主に骨・関節・運動器系の機能解剖を臨床に照らし合わせて理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. ヒトの運動・動作・活動の仕組みを観察や運動学的分析を通して理解する。 2. 理解した内容を、他者に伝えることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	実習1: 骨性ランドマーク・肩甲骨動リズム①	目的・手順説明		
2	実習1: 骨性ランドマーク・肩甲骨動リズム②	データ収集・分析		
3	実習1: 骨性ランドマーク・肩甲骨動リズム③	発表(スライド)		
4	実習2: 動作分析①	目的・手順説明		
5	実習2: 動作分析②	データ収集・分析		
6	実習2: 動作分析③	発表(レポート)		
7	実習3: 握力・ピンチ力①	目的・手順説明		
8	実習3: 握力・ピンチ力②	データ収集・分析		
9	実習3: 握力・ピンチ力③	発表(スライド)		
10	実習4: 各種道具とその把握・つまみの形態①	目的・手順説明		
11	実習4: 各種道具とその把握・つまみの形態②	データ収集・分析		
12	実習4: 各種道具とその把握・つまみの形態③	発表(レポート)		
13	実習5: 重心動揺・リーチ検査①	目的・手順説明		
14	実習5: 重心動揺・リーチ検査②	データ収集・分析		
15	実習5: 重心動揺・リーチ検査③	発表(スライド)		
16	実習6: 座位姿勢の姿勢パターン・姿勢分析①	目的・手順説明		
17	実習6: 座位姿勢の姿勢パターン・姿勢分析②	データ収集・分析		
18	実習6: 座位姿勢の姿勢パターン・姿勢分析③	発表(レポート)		
19	実習7: 立ち上がり動作①	目的・手順説明		
20	実習7: 立ち上がり動作②	データ収集・分析		
21	実習7: 立ち上がり動作③	発表(スライド)		
22	実習8: 踏み台昇降①	目的・手順説明		
23	実習8: 踏み台昇降②	データ収集・分析		
24	実習8: 踏み台昇降③	発表(レポート)		
25	実習9: 歩行分析①	目的・手順説明		
26	実習9: 歩行分析②	データ収集・分析		
27	実習9: 歩行分析③	発表(スライド)		
28	実習10: 感覚・知覚について①	目的・手順説明		
29	実習10: 感覚・知覚について②	データ収集・分析		
30	実習10: 感覚・知覚について③	発表(レポート)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学 第5版(中村隆一)		①講義内容を理解しレポートにまとめること ②授業へ取り組む姿勢(個人ワークとグループワーク) ③課題レポート	①60% ②25% ③25%	実技は原則として、動きやすい服装・KCを着用すること。 教科書・教材を持参すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		作業療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川等史（実務経験有）
授 業 の 概 要				
誕生から死に至るまでの人間の生涯を、主に心理学の立場から理解し考察する。発達概念や主な発達理論を学習し、青年期、成人期、高齢期についても、各時期に特有のライフイベントに焦点をあてながら考察する機会を設ける。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
基礎的な発達概念を理解し、主な発達理論についての概略を述べることができる。 主な原始反射の出現と消失について述べることができる。 上肢機能やADLの発達の順序性について述べることができる				
回	テ ー マ	内 容		
1	人間発達学総論	生涯発達概念を理解する		
2	身体・姿勢・移動動作の発達	身体の成長と姿勢調節・移動能力との相互作用性を把握する		
3	目と手の協調の発達	上肢の基本動作の発達過程を理解する		
4	認知機能の発達	知能の構造を知る視点の意味する内容を知る		
5	コミュニケーションの発達	コミュニケーションを構成する要素や発達過程を述べる ことができる		
6	日常生活における諸活動の発達	遊び、ADL、仕事の本質を把握するとともにその特徴を示す 具体例をあげる		
7	食事動作の発達	食事動作における手と口の協調性の発達過程を理解する		
8	排泄行動の発達	排泄に関わる反射や自立時期を把握する		
9	更衣整容の発達	生理的、生活、社会的、自己実現のそれぞれのレベルにお ける更衣・整容動作の特徴を把握する		
10	遊びの発達 仕事をする能力の発達	遊びの発達の概要（出現・発展・消滅の時期）を把握 仕事をする準備段階での行動特徴		
11	胎生期（受精～40週）	先天異常の原因となる物理作用、化学物質、感染および抗 原接種、血液型不適合、母体の疾病の具体例をあげる		
12	乳児期	自我の形成過程、マラーの分離—個体化過程、感情の分 化過程、愛着関係の内容を把握する		
13	幼児期	走行と跳躍の獲得の意義を知る		
14	児童期・青年期	児童期における論知的思考の内容と意義を把握する 身体の成熟に対する心理的反応を把握		
15	成人期・老年期	仕事を維持する能力のなかで、普遍的に求められる能力を まとめる。死がもつ独自の特徴を理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
岩崎清隆 人間発達学 医学書院		期末試験 レポート課題	80.0% 20.0%	

作成者:田近

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		作業療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田近、他 (実務経験有)
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正期生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、脾臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺 照男 編 ノーベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		作業療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	深澤大地（実務経験者）
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げて解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。 カウンセリングの流れを知る。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学とは	臨床心理とは？臨床心理学総論		
2	乳幼児のころ	乳幼児期		
3	乳児期のころ	幼児期		
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題		
5	児童期のころ	児童期		
6	思春期のころ	思春期①		
7	思春期のころの問題	思春期②		
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期		
9	カウンセリング1	カウンセリングについて～導入～		
10	カウンセリング2	カウンセリングについて～方法～		
11	カウンセリング3	カウンセリングについて～解釈～		
12	カウンセリング4	カウンセリングについて～解釈～		
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング		
14	保護者支援	保護者支援		
15	まとめ	復習とまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		作業療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西潟・浅野・他(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患の疾患概要を説明できる。 整形外科疾患の障害像がわかる。 整形外科疾患の治療・治療法がわかる。 整形疾患と理学療法・作業療法の関連について理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	整形外科に必要な解剖生理学	運動器解剖学		
2	整形外科的治療法	保存療法 手術療法 理学療法・作業療法との関連 外部講師		
3	骨折 1	小テスト 骨折の分類、治療過程、合併症など		
4	切断および離断	種々の疾患・病態・治療法など 外部講師		
5	骨折 2	小テスト 各骨折の特徴的症狀		
6	骨折 3	小テスト 各骨折の特徴的症狀		
7	関節・腱・靱帯における外傷性疾患	小テスト 捻挫・脱臼の概念と関節構成体の修復過程		
8	退行性疾患	変形性関節症、骨粗鬆症 外部講師		
9	末梢神経障害	小テスト 種々の疾患・病態・治療法など		
10	ハンドセラピー1	外部講師		
11	ハンドセラピー2	外部講師		
12	脊椎疾患	小テスト 椎間板ヘルニア、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症、靱帯骨化症		
13	脊髄損傷	種々の疾患・病態・治療法など 外部講師		
14	関節リウマチ	小テスト 種々の疾患・病態・治療法など		
15	骨代謝疾患	小テスト 続発性骨粗鬆症・骨端症		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第5版』染矢・菊地著 医学書院 『病気が見える vol.11 運動器・整形外科 第2版』医学情報科学研究所編集 メディックメディア		小テスト 期末試験	20% 80%	

作成者：牛丸翔太

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅰ（総論）		作業療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	牛丸・山田 （実務経験有）
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する 1. バイタルサインを正しく測定できる 2. 患者さんの訴えおよび症状から内科疾患を絞り込める 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微細な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内 容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
3	循環器疾患 2	主要な症候		
4	循環器疾患 3	冠危険因子		
5	循環器疾患 4	虚血性心疾患、心不全		
6	循環器疾患 5	大動脈疾患、末梢血管疾患		
7	循環器領域のリハビリテーション	Dr 講義の補習と心臓リハビリテーション		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理 主要な症候と病態生理		
9	呼吸器疾患 2	臨床で多い呼吸器疾患(COPD、肺炎、気管支喘息を中心に) 呼吸不全		
10	呼吸器疾患 3	呼吸器疾患で用いる検査とその診かた 呼吸リハビリテーション		
11	代謝性疾患	代謝性疾患とは？ 糖尿病の病態、検査、治療、リハビリテーションの実際		
12	腎・泌尿器疾患	主要な症候と病態生理		
13	消化器疾患	主要な症候と病態生理		
14	その他内科疾患 感染症	内科学で取り扱う主要な症候と病態生理		
15	内分泌疾患 テスト対策	内分泌疾患の主要な症候、病態について 期末テスト対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:牛丸翔太

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		作業療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	塚田・中川・牛丸（実務経験あり）
授業の概要				
内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・泌尿器・血液・代謝疾患の各論について理解を深める。 療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。 1. バイタルサインを正しく測定できる。 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微少な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。				
回	テーマ	内 容		
1	内科学とは 診断と治療の実際	内科学の概念、診断から治療のプロセス		
2	症候学 1	発熱 全身倦怠感 食欲不振 悪心・嘔吐 易感染性		
3	症候学 2	意識障害 めまい 浮腫・むくみ 頭痛 リンパ節腫脹 ショック		
4	循環器疾患 1	症候 診断 各論		
5	循環器疾患 2	心臓・代謝性疾患・腎臓リハビリテーションについて		
6	呼吸器疾患 1	症候 診断 各論		
7	呼吸器疾患 2	呼吸リハビリテーション		
8	血液・造血器疾患	生理 症候 検査 各論		
9	代謝性疾患	仕組み 各論		
10	腎・泌尿器疾患	解剖・生理 検査 各論		
11	褥瘡 1	創傷 栄養		
12	褥瘡 2	創傷 栄養		
13	感染症1	感染症総論		
14	感染症2	感染症各論		
15	内科疾患のリハビリテーション	内科学講義の復習とリハビリテーションについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:竹中 誠

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅰ（総論）		作業療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中 誠（実務経験有）
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション・導入	神経内科学について、頭蓋内病変の画像		
2	神経内科疾患	脳血管疾患①；脳梗塞		
3	神経内科疾患	脳血管疾患②；脳内出血、くも膜下出血		
4	神経内科疾患	認知症		
5	神経内科疾患	脳腫瘍		
6	神経内科疾患	外傷性脳損傷		
7	神経内科疾患	脊髄疾患		
8	神経内科疾患	変性疾患①		
9	神経内科疾患	変性疾患②		
10	神経内科疾患	末梢神経障害		
11	神経内科疾患	てんかん		
12	神経内科疾患	筋疾患		
13	神経内科疾患	感染性疾患		
14	神経内科疾患	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患		
15	神経内科疾患	小児神経疾患		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 病気がみえるvol.7 脳・神経		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中誠（実務経験あり）
授業の概要				
神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、最近は認知を含む高次脳機能障害や障害者の心理社会的側面も対象領域となってきた。特に後者は、専門性が高く、将来飛躍的に需要が伸びる分野であろうと思われる。本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。学習目的は関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力の育成である。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・神経症候学の基礎を理解し、障害の理解が図れる。 ・神経症候を呈する病態・臨床症状・診断・治療を疾患区分ごとに理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション 導入	神経学的診断と評価と神経学的検査法		
2	神経診断1	意識障害・髄膜刺激症状		
3	神経診断2	脳神経①		
4	神経診断3	脳神経②		
5	神経診断4	運動麻痺、錐体路兆候、筋萎縮		
6	神経診断5	筋力低下、錐体外路兆候、不随意運動		
7	神経診断6	反射、運動失調		
8	神経診断7	感覚・歩行		
9	神経診断8	高次脳機能障害①		
10	神経診断9	高次脳機能障害②		
11	神経診断10	高次脳機能障害③		
12	神経診断11	嚥下障害		
13	まとめ	廃用誤用過用、合併症		
14	まとめ	運動学習理論		
15	まとめ	脳卒中リハビリテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ 第3版 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		作業療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が臨床の場で必要とされる精神症状や精神疾患、また精神疾患を有する患者の理解・対応に必要な基本的知識を学ぶ。 [実務経験]病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・精神医療の歴史や精神保健福祉にかかわる制度や現代のメンタルヘルスに関する諸問題について理解したり、考えることができる。 ・主要な精神症状や精神疾患の成因・病態・治療法などについて説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	総論①	精神医学とは、精神医療の歴史		
2	総論②	精神障害の成因と分類、診断と評価		
3	精神症状①	精神機能の障害と精神症状		
4	精神症状②	精神機能の障害と精神症状		
5	器質性精神障害	認知症		
6	精神作用物質による精神および行動の障害	アルコール依存、薬物依存		
7	統合失調症	統合失調症		
8	統合失調症	統合失調症		
9	気分（感情）障害	うつ病、双極性障害		
10	神経症性障害	不安障害、強迫性障害、PTSDなど		
11	生理的障害および身体的要因に関連した障害	摂食障害、睡眠障害		
12	成人のパーソナリティおよび行動の障害	パーソナリティ障害、行動の障害		
13	ライフサイクルにおける精神医学	各時期における心理特性とメンタルヘルス		
14	精神障害の治療	薬物療法、精神療法、リハビリテーション		
15	精神保健医療の現状と課題	精神保健福祉法、医療観察法 精神疾患やメンタルヘルスの諸問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上野武治（編）：標準理学療法学・作業療法学、精神医学第4版増補版、医学書院、2021.		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	小児科学概論 診断と治療の概要	小児科の特徴、成長と発達、栄養と接触、保健 診断と検査、治療法		
2	新生児・未熟児疾患	胎児期、周産期、新生児期、新生児の評価と問題、早産児 の神経学的所見、新生児・周産期異常、疾患		
3	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常症		
4	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞を伴う疾患、発達障 害、脊髄性疾患、筋疾患、骨・関節疾患		
5	循環器疾患	心血管系の発生と対外環境、症状と検査、発症頻度と原 因、先天性心疾患、後天性心疾患		
6	呼吸器疾患	発生と機能、症状と検査、治療と処置、代表的呼吸器疾患		
7	感染症	症状、診断と治療、各年代での代表的感染症		
8	消化器疾患	消化器の発生、機能的発達と症状、代表的消化器疾患、		
9	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患、糖代謝異常		
10	血液疾患	造血組織の発生、血液の成分、赤血球系の異常、白血球系 の異常、出血性・血栓性疾患		
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、膠原病		
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患		
13	腫瘍性疾患	悪性腫瘍の発生頻度、神経芽腫、網膜芽腫		
14	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾 患・虐待	習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患、児童虐待		
15	重症心身障害児 眼科・耳鼻科の疾患	重症心身障害児の定義および発達、療育の体制 眼科、耳鼻科		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「小児科学」 第6版：富田豊編集：医学書院		期末試験	100.0%	

作成者:牛丸翔太

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学(栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		作業療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	牛丸翔太(実務経験有)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。 ・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。 ・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。 ・救急時の対応について理解する(AED含む)。				
回	テーマ	内 容		
1	正常画像所見 1	X-P、MRI、CTの画像の読影(運動器)		
2	正常画像所見 2	X-P、MRI、CTの画像の読影(循環器・呼吸器)		
3	疾患別画像所見 1	運動器疾患(骨折、筋・靱帯断裂)		
4	正常画像所見 3	MRI、CTの画像の読影(脳)		
5	疾患別画像所見 2	脳血管疾患		
6	正常画像所見 4	エコーの画像の読影		
7	救急救命 1	AEDについて 一次救命処置		
8	救急救命 2	一次救命後の対応		
9	薬理学 1	リスク管理に必要な薬剤の知識 1		
10	薬理学 2	リスク管理に必要な薬剤の知識 2		
11	薬理学 3	リスク管理に必要な薬剤の知識 3		
12	薬理学 4	リスク管理に必要な薬剤の知識 4		
13	肝臓病の臨床栄養学			
14	腎臓病の臨床栄養学			
15	虚血性心疾患における臨床栄養学			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験 課題	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		作業療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	護摩堂秀之助 (実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内 容		
1	リハビリテーションとは何か	リハビリテーションの語源		
2	リハビリテーションの歴史	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
3	障害の捉え方	ICIDHからICFへ		
4	事例検討	事例を通して考えるリハビリテーション		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	障害者体験	障害者の視点を感じよう		
7	チーム医療	チーム医療の重要性と他職種連携の基本		
8	リハビリテーション専門職の役割	理学療法士・作業療法士、その他の職種の役割		
9	生活とその人らしさ	ADLとQOL		
10	リハビリテーション関連法規	医療法、福祉六法、障害者総合支援法など		
11	リハビリテーション工学	自助具、福祉用具		
12	栄養とリハビリテーション	栄養、摂食嚥下障害		
13	回復段階によるリハビリテーション	急性期・回復期・生活期		
14	キャリア形成	ジョブカード活用		
15	リハビリテーション再考	まとめと振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川手信行：リハビリテーション概論のいろは 資料配布		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学		作業療法科／4年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中山吉宣（実務経験有）
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務（獣医師）				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内 容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計（出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、）		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生（生態系、地球希望の環境、公害、廃校、廃棄物処理、放射線）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる：MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会保障論（含む地域包括ケア・自立支援）		作業療法科／4 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（時間）	必須	小島、白瀬（実務経験あり）
授 業 の 概 要				
国民生活を生涯にわたって支える社会保障制度について知識を得る。 自らの専門職と社会保障制度の関連を知る。				
授業終了時の到達目標				
社会保障制度と関連のある省庁からの情報を得ることができるようになり、将来に役立つ能力を身に付ける。				
回	テ ー マ	内 容		
1	社会保障の現状	憲法第25条		
2	社会保障の概念・理念	地域包括ケア		
3	社会保障と財政	総合支援法		
4	社会保障と社会扶助	介護保険制度		
5	公的保険と民間保険			
6	社会保険制度の体系			
7	諸外国における社会保障制度			
8	社会保障の課題と展望			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート 小テスト	80.0% 20.0%	

作成者:西潟央

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
多職種連携		作業療法科 / 2年	2025 / 後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	西潟 央 (実務経験あり)
授 業 の 概 要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・ 地域包括ケアシステムについて理解する。 ・ 医療における他職種連携について理解する。 ・ 介護保険下での多職種連携について理解する。 ・ 認知症の方をサポートできる				
	テ ー マ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて 認知症を考える	認知症サポーター養成講座		
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	医療・介護・地域との連携について 考える	グループワーク		
6	医療・介護・地域との連携について 考える	グループワーク		
7	医療・介護・地域との連携について 考える	グループ発表		
8	医療・介護・地域との連携について 考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		グループワーク・プレゼンテーション	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅰ（含むMTDLP/EBOT）		作業療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹内佑（実務経験有）
授業の概要				
作業療法領域全体を概説する。作業療法がどのような人たちに対し、どのようなことを目的として、どのような手段を用いて介入するのか、作業療法の専門性や役割、専門職としての作業療法士についての概要を学ぶ。作業療法を学ぶ上での出発点として位置付けられる科目である。また、MTDLPをとおして評価から統合と解釈、治療までの作業療法の流れを理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
- 作業療法の基本的な考え方、枠組み、役割を理解し、説明ができる。 - 作業療法の対象者と活動領域を理解し、説明ができる。				
回	テーマ	内 容		
1	作業療法とは	作業療法の定義 ICF MTDLP		
2	ICFからとらえる健康	イントロダクション 事例 多職種連携 作業バランス		
3	作業療法の歴史	世界 日本		
4	作業療法の流れ	依頼書から再評価まで、ボトムアップとトップダウン、 情報収集、検査測定と観察評価、主観的評価客観的評価		
5	身体障害分野の作業療法①	身体障害作業療法 対象 脳血管・運動器		
6	身体障害分野の作業療法②	事例		
7	精神障害領域の作業療法①	精神障害とは 精神医療の歴史		
8	精神障害領域の作業療法②	精神科作業療法の実践事例		
9	発達障害領域の作業療法①	肢体不自由児 脳性麻痺、筋ジス、重症心身障害児 への作業療法		
10	発達障害領域の作業療法②	発達障害、精神発達遅滞、二分脊椎への作業療法		
11	特別支援学校	学校作業療法 教育的リハ、就労支援		
12	高次脳機能障害の作業療法①	高次脳機能障害とは		
13	高次脳機能障害の作業療法② 高齢期の作業療法	事例 認知症と高次脳機能障害の違い		
14	地域作業療法 MTDLP①	通所リハ、地域包括センター、 障害者総合支援法などの制度		
15	地域作業療法 MTDLP②	事例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・長崎重信 作業療法学概論 改訂第2版 メジカルビュー社 ・日本作業療法士協会編集 事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント第2版 医歯薬 出版		期末試験	100.0%	総論20、身体障害 15、精神障害15、 高次脳15、発達障 害15、特別支援学校 5、MTDLP15

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論Ⅱ（含む人間作業モデル）		作業療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶 直美（実務経験有）
授 業 の 概 要				
・理論には、関連用語があるため、用語を含めた理論背景を学ぶ ・理論の適応範囲や対象を知る ・理論を5W1Hで理解する 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
理論を学び、実践で活用できるように理解することにより、作業療法実践の質の向上につなげる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	総論	作業療法のモデル		
2	COPM	検査方法 検査体験		
3	人間作業モデル	総論		
4	人間作業モデル	事例		
5	行動変容モデル DVD: コレス骨折	グループ発表①		
6	川モデル DVD: 認知症	グループ発表②		
7	CI療法	グループ発表③		
8	認知行動療法	グループ発表④		
9	AMPS	グループ発表⑤		
10	生体力学モデル	グループ発表⑥		
11	その他の理論	グループ発表⑦		
12	作業療法を観る	事例①		
13	作業療法を観る	事例②		
14	作業療法を観る	事例③		
15	作業療法を観る	事例④		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・里村恵子編集 作業療法概論第3版 メジカルビュー社		期末試験	60.0%	
・斎藤佑樹編集 作業で語る事例報告第2版 医学書院		発表	20.0%	
・副教材 菊池恵美子監修 作業療法を観る GBR		ワークシート	20.0%	

作成者:中川等史

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅰ（作業分析学）		作業療法科/1年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川、護摩堂、他（実務経験有）
授業の概要				
作業を手段として用いる作業療法にとって、作業の適切な利用が求められる。作業がどのような治療的意味を持つのか、どのように治療的に用いられるのか、その特性等について知ることは作業療法を実施する上で重要である。また、治療的手段として用いられる作業種目を多く知ることは、その選択の幅を広げる。 本講義では実際に作業を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深めていくことを主題とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業・作業活動の意味について理解を深める。 ・治療的手段としての作業を身体的（運動学的）・精神的側面から学び理解する。 ・作業に必要な用具や材料および作業工程を理解できる。 ・基本的な作業活動の工程分析の視点を学び理解する。 ・作業を行う上での注意事項について理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	基礎作業学の学び方		
2	作業分析の仕方	くす玉作り・ワークシートの書き方		
3	革細工	スタンピング・カービング		
4	革細工	色付け・仕上げ		
5	革細工	ワークシート作成・レポートの書き方		
6	革細工	レポート作成		
7	木工	設計・裁断		
8	木工	組み立て・釘打ち・ニス		
9	木工	ワークシート作成		
10	木工	レポート作成		
11	陶芸	成型		
12	陶芸	電動ろくろ体験		
13	陶芸	ワークシート作成		
14	陶芸	レポート作成		
15	まとめ	観察の仕方と作業分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版：古川 宏 監修, 医学書院出版, 2012 ・濱口豊太 基礎作業学歳3班 医学書院		課題・レポート	100.0%	実技時は、動きやすく、汚れても良い服装で臨んでください。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学Ⅱ (技術・演習)		作業療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
作業療法士が用いる作業を様々な視点から考えたり、分析したり、作業に焦点を当てて実践できるようになるために、実践(演習)やグループワークを通して理解を深めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業についての理解を深め、作業療法における作業の意義を言語化できる。 ・対象者にとっての作業の意味について、多角的な視点から考察し、説明することができる。 ・各作業種目の作業特性を説明したり、段階付けや適応疾患について検討することができる。 ・自分の実践について作業・作業遂行の視点から振り返ることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	作業学概論①	作業とは何か、手段・目的としての活用		
2	作業学概論②	作業に焦点を当てた実践とは		
3	作業学概論②	作業分析、個人・集団		
4	作業学概論②	段階付け		
5	作業特性の理解と活用①	作業体験・分析		
6	作業特性の理解と活用②	作業体験・分析		
7	作業特性の理解と活用③	作業体験・分析		
8	作業と心理	作業と心理の相互作用		
9	作業提供①	演習(評価・計画・準備)		
10	作業提供②	演習(評価・計画・準備)		
11	作業提供③	演習(実践)		
12	作業提供④	演習(振り返り)		
13	作業療法士に求められる能力①	事例検討		
14	作業療法士に求められる能力②	事例検討		
15	作業の意義	意味のある作業の支援に向けて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
古川宏：作業活動実習マニュアル，第2版，医歯薬出版。 濱口豊太：基礎作業学，第3版，医学書院。 齋藤佑樹：作業で語る事例報告，第2版，医学書院。		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅲ（レクリエーション）		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川 等史、白瀬雅登（実務経験有）
授業の概要				
本講義ではレクリエーション活動の社会的意義、レクリエーションの援助者としての役割について理解させる。また、レクリエーションサービスのポイントを理解し、レクリエーション計画の作成能力および実践援助能力の習得を目指す。E-スポーツを取り入れたレクリエーションを障害がある方々へQOLの拡大、コミュニケーションの拡大を目的に実施する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
レクリエーションと余暇活動、社会参加との関連が理解できる。 障害別レクリエーションを治療的に考え、計画し実行することが出来る				
回	テーマ	内容		
1	レクリエーションの概念・治療的応用・障害別レクリエーションを考える	レクリエーションの基本的理念から概念および治療的な応用・中心系疾患や整形外科疾患、精神疾患、発達系疾患やその他の障害別レクリエーションについて考える		
2	レクの計画と実施①	グループワークにてレクの計画を立てる		
3	レクの計画と実施①	実際に計画してレクを実行		
4	レクの計画と実施①	実際に計画してレクの実行と記録		
5	レクの結果発表と反省①	実行したレクの結果や反省点などを発表		
6	レクの計画と実施②	グループワークにてE-スポーツレクの計画を立てる		
7	レクの計画と実施②	実際にE-スポーツレク計画をしてレクを実行		
8	レクの結果発表と反省②	実行したE-スポーツレクの結果や反省点などを発表		
9	レクの計画と実施②	グループワークにてレクの計画を立てる		
10	レクの計画と実施②	実際に計画してレクを実行		
11	レクの結果発表と反省②	実行したレクの結果や反省点などを発表		
12	レクの計画と実施②	グループワークにてレクの計画を立てる		
13	レクの計画と実施②	実際に計画してレクを実行		
14	レクの結果発表と反省②	実行したレクの結果や反省点などを発表		
15	フレイル予防	脳トレを取り入れたレクリエーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
寺山久美子監修：レクリエーション 社会参加を促す治療的レクリエーション改訂第3版、三輪書店、2014		課題・レポート・発表	100.0%	レクの実施は、体育館で行うため、靴底が天然ゴム、白のものに限る。

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
研究方法論Ⅰ（抄読）		作業療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	丁子雄希（実務経験有）
授 業 の 概 要				
科学的根拠に基づいて意思決定を行うために、客観的な立場から批判的にデータを読み解く視点を習得する。				
授業終了時の到達目標				
・クリティカルリーディングの視点を理解する。 ・質的研究、量的研究、混合研究の違いを理解できる。 ・EBMを理解できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	文献検索の仕方、文献レビュー	レビューの仕方		
2	エビデンスの分類	エビデンスの階層		
3	診断の指標			
4	研究倫理	倫理審査		
5	質的研究	M-GTA		
6	質的研究	内容分析		
7	質的研究	KJ法		
8	混合研究、質的研究	テキストマイニング		
9	文献抄読	抄読①		
10	文献抄読	抄読②		
11	症例・事例報告	症例・事例報告		
12	症例・事例研究	症例・事例研究		
13	量的研究	2群間比較		
14	量的研究	相関・回帰		
15	量的研究	多変量解析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
症例・事例報告から始めるPT・OTのための臨床研究実践法. 森岡周 監修. メジカルビュー		課題・レポート	100.0%	

作成者：丁子

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
研究方法論Ⅱ（方法）		作業療法科／4年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	丁子雄希（実務経験有）
授業の概要				
研究とは何か、研究の進め方はどのように行うか、研究成果のまとめ方などの研究法について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
研究法の種類（質的研究、量的研究、事例研究、症例報告）の違いや、研究の流れを理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	仮説の立て方①	仮説とは		
2	仮説の立て方②	仮説生成と仮説検証		
3	文献収集の仕方①	電子ジャーナルの使用		
4	文献収集の仕方②	ハンドリサーチ		
5	研究計画書の作成の仕方①	計画書の流れ		
6	研究計画書の作成の仕方②	実演		
7	倫理審査について	倫理審査委員会の流れ		
8	データ収集の仕方①	データの質と量		
9	データ収集の仕方②	収集方法		
10	データ解析①	解析方法の紹介		
11	データ解析②	実演		
12	発表準備①	抄録の作成の仕方		
13	発表準備②	スライドの作成の仕方		
14	発表準備③	発表準備		
15	発表会（クリティーク）			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハ研究の進め方・まとめ方、志波直人（編著）、医歯薬出版株式会社 作業療法研究法、医歯薬出版株式会社 ・超実践 シングルケースデザイン、金芳堂、2020		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学Ⅰ（職場倫理・職場管理）		作業療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	護摩堂 秀之助（実務経験有）
授業の概要				
作業療法士における職業倫理や職場における管理業務等について学ぶ【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・職業倫理を身につけることができる。倫理観を持って病院実習に臨む基本ができるようになる ・ハラスメントや守秘義務・個人情報管理の理解、コミュニケーションスキルを身につける ・職場管理業務を学び、診療の流れや記録、備品管理等の業務理解ができる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	作業療法管理学とは		
2	作業療法とマネジメント	マネジメントの基礎と作業療法の関係を学ぶ		
3	多職種連携	多職種連携とは		
4	情報管理	医療機関での情報の管理について		
5	常識とマナー	医療現場での常識やマナーについて学ぶ		
6	コミュニケーションスキル	職場でのコミュニケーションスキルについて		
7	倫理とハラスメント	医療場面での倫理やハラスメントについて		
8	記録と報告	医療現場での記録及び報告について（電子カルテなど）		
9	作業療法をとりまく諸制度①	医療保険・介護保険・障害者福祉制度について		
10	作業療法をとりまく諸制度②	地域包括ケアシステムについて		
11	医療機関の安全管理	医療現場での安全管理について学ぶ（健康チェックやリスク管理）		
12	医療機関の感染管理	医療現場での感染管理について学ぶ		
13	ストレスマネジメント	ストレスとは ストレスコーピング		
14	クリニカルクラークシップ	診療参加型臨床実習について		
15	トピックス	災害リハビリテーションなど		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法管理学（第3版）：医歯薬出版株式会社（大庭潤平）		期末試験 課題	60.0% 40.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法管理学Ⅱ (保険制度)		作業療法科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	護摩堂秀之助(実務経験有)
授業の概要				
作業療法士における医療現場でのリスク管理について具体的に事例を挙げて学ぶ。治療や転院、退院に向けた保険制度等についても学ぶ。アクティブラーニングを中心に進めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
- 急性期でのリスク管理(病態の急変やリハ中止基準など)について理解する - 回復期でのリスク管理(合併症、痛みなど)について理解する - 外来でのリスク管理(血圧、めまいなど)について理解する - 介護老人保健施設でのリスク管理(不穏や不眠など)について理解する - 在宅リハでのリスク管理(浮腫や息切れ、低栄養など)について理解する - 地域での予防事業および取り組みについて理解する				
回	テーマ	内 容		
1	リスク管理総論①	リスク管理に対する医学的知識の整理		
2	リスク管理総論②	イベントの予測と中止の判断		
3	リスク管理総論③	緊急性の判断と急変時の対応		
4	介護保険制度	介護保険と予防給付		
5	地域包括ケアシステム①	地域の取り組み		
6	地域包括ケアシステム②	予防事業		
7	急性期ケース1	事例：脳梗塞増悪、胸痛		
8	急性期ケース2	事例：意識レベル低下、呼吸困難		
9	回復期ケース1	事例：動機の訴え、上肢痛		
10	回復期ケース2	事例：腰痛、膝関節痛		
11	外来ケース1	事例：突然の意識障害、めまい		
12	外来ケース2	事例：徐脈でのふらつき、訓練中の血圧低下		
13	介護老人保健施設ケース	事例：発熱、原因不明の腹痛		
14	在宅ケース	事例：低栄養に生じた意識障害、浮腫と息切れ		
15	キャリア形成	ジョブカードを活用したキャリアプランニング		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
宮越紘一著：リハビリテーションリスク管理(ケーススタディ)：メジカルビュー社		事例発表 レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学概論Ⅰ（含むICF）		作業療法科/1年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬雅登、竹内佑 （実務経験あり）

作業療法とは、どのように実践していくのかを知り、治療に結びつく評価の仕方を学ぶ。
【実務】病院勤務

授業終了時の到達目標

作業療法評価の概念を理解し、実践に結びつく知識を身に着ける

回	テーマ	内 容
1	総論	作業療法評価とは
2	各論①	面接
3	各論②	バイタル測定、意識
4	各論③	感覚
5	各論④	反射
6	各論⑤	形態測定
7	各論⑥	関節可動域測定（上肢）
8	各論⑦	関節可動域測定（上肢）
9	各論⑧	関節可動域測定（上肢）
10	各論⑨	関節可動域測定（上肢）
11	各論⑩	認知機能評価
12	各論⑪	片麻痺の運動機能評価
13	各論⑫	ADLの評価
14	各論⑬	ICF
15	各論⑭	ICF

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第4版、医学書院 ・ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版	実技試験	80.0%	
	課題・レポート	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学概論Ⅱ (含む画像評価)		作業療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬雅登(実務経験有)
授業の概要				
画像読影の基礎知識を身につける。 また作業療法評価学概論Ⅰを受けて、評価学全般の基礎を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・MRIとCTの違いが理解できる。 ・領域共通の評価方法を理解し、列挙できる。 ・エコー画像を知ることができる				
回	テーマ	内 容		
1	協調性検査	協調性検査		
2	脳神経検査	脳神経検査法		
3	排泄機能評価	排泄機能評価		
4	上肢機能検査	S T E F		
5	姿勢反射検査 1	原始反射		
6	姿勢反射検査 2	姿勢反射		
7	QOL評価	QOL、興味、役割		
8	脳画像読影の基礎知識 1	脳解剖の基礎		
9	脳画像読影の基礎知識 2	MRIとCTの違い		
10	脳画像	脳梗塞		
11	脳画像	脳出血		
12	脊柱画像	ヘルニア、圧迫骨折		
13	上肢・下肢画像(エコーも含む)	骨折		
14	内臓画像	肺炎		
15	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中島雅美ら(編集)：PT/OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版国試画像問題攻略 能登真一ら(編集)：標準作業療法学 作 業療法評価学 第4版 医学書院		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	

作成者: 竹内 佑

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅰ		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	竹内 佑 白瀬雅彦(実務経験有)
授業の概要				
作業療法評価学概論Ⅰ・Ⅱを受けて、身体障害分野における評価方法を学ぶ。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・疾患別の評価方法を列挙できる。 ・関節可動域測定、筋力検査を正確に実施できる。				
回	テーマ	内 容		
1	関節可動域測定 1	上肢		
2	関節可動域測定 2	上肢		
3	関節可動域測定 3	上肢		
4	関節可動域測定 4	上肢		
5	関節可動域測定 5	手指		
6	関節可動域測定 6	手指		
7	関節可動域測定 7	体幹・下肢		
8	関節可動域測定 8	体幹・下肢		
9	関節可動域測定 9	体幹・下肢		
10	関節可動域測定 10	体幹・下肢		
11	筋力測定 1	上肢		
12	筋力測定 2	上肢		
13	筋力測定 3	上肢		
14	筋力測定 4	上肢		
15	筋力測定 5	手指		
16	筋力測定 6	手指		
17	筋力測定 7	体幹・下肢		
18	筋力測定 8	体幹・下肢		
19	筋力測定 9	体幹・下肢		
20	筋力測定 10	体幹・下肢		
21	身体機能評価法概論			
22	脳血管障害の評価 1	脳血管障害の評価方法概論		
23	脳血管障害の評価 2	各種検査法		
24	頭部外傷の評価			
25	脊髄損傷の評価 1	脊髄損傷の評価方法概論		
26	脊髄損傷の評価 2	各種検査法		
27	末梢神経の評価			
28	関節リウマチ・全身性エリトマトーデス・多発性筋炎の評価			
29	神経疾患の評価	ギランバレー、パーキンソン病、ALS など		
30	内臓疾患の評価	心臓機能障害、呼吸器機能障害、悪性腫瘍		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら(編集): 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		実習・実技評価	100.0%	OSCEをもとに実技試験を行います。

作成者:白瀬雅登			
科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価Ⅱ	作業療法科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	30回	2単位(60時間)	必須
担当教員 白瀬雅登(実務経験有り)			
授業の概要			
各種疾患に対する身体機能の評価を、講義や実技を通して学ぶ。特に、評価項目の選択・実施を中心に授業を展開していく。【実務経験】病院勤務			
授業終了時の到達目標			
各種疾患に対して、適切な評価を選択できる。また、その評価を選んだ理由を説明することができる。 模擬患者に対して、説明を行い、同意を得たうえで、適切に評価を実施することができる。			
回	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、面接		
2	脳血管障害(1)	各種評価の確認	
3	脳血管障害(2)	各種評価の確認	
4	脳血管障害(3)	症例検討	
5	脳血管障害(4)	症例検討	
6	脳血管障害(5)	症例検討	
7	脊髄損傷(1)	各種評価の確認	
8	脊髄損傷(2)	各種評価の確認	
9	脊髄損傷(3)	症例検討	
10	脊髄損傷(4)	症例検討	
11	Parkinson病(1)	各種評価の確認	
12	Parkinson病(2)	各種評価の確認	
13	Parkinson病(3)	症例検討	
14	Parkinson病(4)	症例検討	
15	下肢の骨折(大腿骨頭部骨折)(1)	各種評価の確認	
16	下肢の骨折(大腿骨頭部骨折)(2)	各種評価の確認	
17	下肢の骨折(大腿骨頭部骨折)(3)	症例検討	
18	下肢の骨折(大腿骨頭部骨折)(4)	症例検討	
19	脊椎の骨折(腰椎圧迫骨折)(1)	各種評価の確認	
20	脊椎の骨折(腰椎圧迫骨折)(2)	各種評価の確認	
21	脊椎の骨折(腰椎圧迫骨折)(3)	症例検討	
22	脊椎の骨折(腰椎圧迫骨折)(4)	症例検討	
23	上肢の末梢神経損傷(1)	各種評価の確認	
24	上肢の末梢神経損傷(2)	各種評価の確認	
25	上肢の末梢神経損傷(3)	症例検討	
26	上肢の末梢神経損傷(4)	症例検討	
27	関節リウマチ(1)	各種評価の確認	
28	関節リウマチ(2)	各種評価の確認	
29	関節リウマチ(3)	症例検討	
30	関節リウマチ(4)	症例検討	
教科書・教材		評価基準	評価率
能登真一ら(編集):標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		実技試験 課題・レポート	60.0% 40.0%
			その他 実習の際は、働きやすい服装で参加してください。

作成者:木下僚介

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神機能評価学		作業療法科/2年	2025/後期	講義 / 演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	木下僚介 (実務経験あり)
授業の概要				
・精神障害者に対する作業療法士の役割や評価時の視点・知識・態度を学習・実践する。 ・精神科作業療法における評価の目的や意義を理解し、評価技術の習得や地域生活に向けた臨床思考過程を学ぶ。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 精神科における評価の流れを理解し、様々な評価の視点や目的を理解し、説明することができる。 2. 観察・面接・各種評価法を理解し、実践できる。 3. 個人情報にも留意しながら、評価した結果を適切に記録として残すことができる。				
回	テーマ	内 容		
1	精神障害領域における作業療法	作業療法士の役割		
2	評価のプロセス・方法	評価の目的と留意点		
3	情報収集	情報収集の目的と方法		
4	記録と個人情報	記録方法と個人情報の取り扱い		
5	観察法①	観察の目的と方法		
6	観察法②	演習 (観察チェックリストの活用)		
7	観察法③	演習 (観察と記録)		
8	面接法①	面接の意義、原則		
9	面接法②	演習 (情報収集面接)		
10	面接法③	演習 (質問紙を用いた面接)		
11	面接法④	演習 (質問紙を用いた面接)		
12	面接法⑤	演習 (作業面接)		
13	対象者とのコミュニケーション	傾聴と共感		
14	検査法①	評価尺度の活用と留意点		
15	検査法②	様々な評価尺度		
16	集団における評価	評価の視点		
17	状態像による評価	医学的視点からの評価		
18	回復段階に応じた評価①	急性期・回復期・維持期		
19	回復段階に応じた評価②	長期在院者、地域生活期・就労		
20	評価のまとめ	全体像の把握と解釈		
21	目標設定	目標設定の視点と治療への展開		
22	疾患別の評価①	統合失調症		
23	疾患別の評価②	気分障害		
24	疾患別の評価③	アルコール使用障害		
25	疾患別の評価④	その他の疾患		
26	行動制限	隔離・身体拘束		
27	事例検討	統合失調症例		
28	事例検討	統合失調症例		
29	事例検討	統合失調症例		
30	事例検討	統合失調症例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 ・標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版		期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 10.0% 40.0%	・精神医学や心理学で学習した内容も深く関連するため事前に復習しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能評価学		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	護摩堂 秀之助 (実務経験あり)
授業の概要				
高次脳機能の評価方法を身に着ける【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高次脳機能の評価の目的と方法を理解し、患者にあった評価を選択できるようにする				
回	テーマ	内 容		
1	高次脳機能障害概論	神経系の構造と機能		
2	高次脳機能評価概論	高次脳機能評価の基本、画像の読み方		
3	スクリーニング検査	MMSE、HDS-R		
4	知能検査	コース立方体		
5	半側空間無視検査	BIT		
6	失認検査	視覚失認、視空間失認		
7	失行検査	観念失行、観念運動失行		
8	前頭葉機能検査	FAB		
9	注意障害検査①	TMT		
10	注意障害検査②	CAT		
11	失語検査	SLTA		
12	記銘力検査①	リパーミード行動記憶検査		
13	記銘力検査②	レイの複雑図形、S-PA		
14	遂行機能検査	BADS		
15	高次脳機能障害と自動車運転	SDSA		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
石川朗ら編集 高次脳機能障害・実習 中山書店		実習・実技評価 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達機能評価学		作業療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	中川等史（実務経験有）
授業の概要				
子どもの障害特性を理解し、対象となる疾患や障害に対するの作業療法評価を概説し、病態、評価についての講義を行う。基本的な評価手法を紹介し、主要な評価については演習を通して学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・面接を行ううえでの留意点を説明できる。 ・発達を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 ・感覚統合の発達モデルについて説明できる。 ・行動を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	発達過程作業療法における家族との面接と情報収集・発達検査	面接技術や情報集項目、発達検査の種類について		
2	発達全般をを評価する検査・運動機能評価	各種検査の内容、マイルストーン、脳性麻痺児の評価・検査表について		
3	感覚統合機能の評価・視知覚、視覚認知の評価	感覚統合にかかわる検査、視知覚発達検査、視覚認知評価について		
4	知能・認知機能の評価、行動評価	知能検査各種、行動評価にかかわる検査各種		
5	作業遂行・身辺自立の評価	ADL評価表各種、AMPS、ESI		
6	検査実習 1	知能検査実習		
7	検査実習 2	視知覚検査、SM式検査		
8	検査実習 3	JMAP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学		期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	実習は、目標とする項目が終了しない場合、補習を追加する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢期評価学		作業療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬雅登（実務経験有り）
授業の概要				
講義や実技を通して、高齢期障害の特徴や各種評価の特性を学ぶ。また、症例検討を通して、患者に応じた評価の選択を練習していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高齢期障害の特徴を理解したうえで、適切に評価項目を選択できる。また、その評価を選択した理由を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	高齢期障害とは	高齢期の健康状態、生理・心理的特徴、廃用症候群、体力、活動能力、意欲		
2	評価すべき項目			
3	認知・知的機能評価（1）	HDS-R、MMSE		
4	認知・知的機能評価（2）	国立精研式認知症スクリーニングテスト、柄澤式老人知能の臨床的判定基準		
5	認知・知的機能評価（3）	GBSスケール、N式老年者用精神状態尺度（NMスケール		
6	認知・知的機能評価（4）	日本語版MoCA（MoCA-J）、MOSES、FAST		
7	認知症者の行動・心理症状（BPSD）に関する評価（1）	BPSDとは		
8	認知症者の行動・心理症状（BPSD）に関する評価（2）	認知症行動障害尺度（DBD）、日本語版NPI-Q、アルツハイマー病行動病理学尺度		
9	障害高齢者の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活判定基準			
10	老年うつ病スケール			
11	地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート、介護度			
12	アセスメント			
13	症例検討会（1）			
14	症例検討会（2）			
15	症例検討会（3）			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験 授業内課題	70.0% 30.0%	

作成者:長谷川

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢学		作業療法科／2年	2025／後期	講義（演習も含む）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	長谷川丈剛（実務経験あり）
授 業 の 概 要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	概要	講義		
2	下肢切断の理学療法評価	講義		
3	下腿義足	講義		
4	下腿義足	講義		
5	大腿義足	講義		
6	大腿義足	講義		
7	股義足	講義		
8	膝義足・サイム義足・足部部分義足	講義		
9	各種継手	講義		
10	下肢切断に対する理学療法	講義		
11	義手	講義		
12	義手	講義		
13	義手	講義		
14	まとめ	復習		
15	まとめ	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 移乗とその対応が分かる動画付き 第2版』：高田治実 監修 羊土社 2023年		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・竹中(実務経験有)
授業の概要				
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。				
授業終了時の到達目標				
装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。 疾患や対象者に合った装具を選定および作製できる。				
回	テーマ	内 容		
1	装具学総論・下肢装具の構成部品とチェックアウト	装具の目的、機能、対象疾患、分類、3点固定の原理 装具作成の流れ 下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
2	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム		
3	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
10	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	スプリント作成①	作業療法士が作製するスプリントについて		
12	スプリント作成②	カックアップスプリント		
13	スプリント作成③	短対立スプリント		
14	スプリント作成④	手指スプリント		
15	義肢装具の給付制度	義肢装具の給付制度の種類と概要について理解する 治療用(医療用)、構成用義肢装具における費用の申請方法について理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT・OTビジュアルテキスト義肢装具学第2版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	教科書は必ず持参する

作成者:白瀬 雅登

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ（総論）		作業療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬 雅登（実務経験有）
授業の概要				
講義や実技練習を通して、日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴を理解する。また、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案を学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴をふまえたうえで、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案ができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	日常生活活動の概念と種類（1）			
2	日常生活活動の概念と種類（2）			
3	基本動作（1）	寝返り、起き上がり		
4	基本動作（2）	立ち上がり		
5	基本動作（3）	移乗		
6	基本動作（4）	移動		
7	身辺動作（1）	食事		
8	身辺動作（2）	整容		
9	身辺動作（3）	更衣		
10	身辺動作（4）	排泄		
11	身辺動作（5）	入浴		
12	日常生活関連動作（1）	家事・家屋管理		
13	日常生活関連動作（2）	買い物、公共交通機関の利用		
14	福祉用具	福祉用具体験講座		
15	福祉用具	福祉用具体験講座		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
藤井浩美 他 編：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動（ADL）（改訂第2版），中央法規 濱口豊太：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版，医学書院，2017		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	実技の際は、アク セサリー類は外 し、動きやすく服 装で臨んでくださ い。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬雅登（実務経験有）
授業の概要				
様々な障害を持つ人々に対する生活技術の支援方法等について学習します。また、介護ロボットについての先端技術についても知識を得る。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 日常生活活動における正常動作とその工程を理解・説明できる。 2. 日常生活活動における各動作を評価できる。 3. 日常生活活動障害について理解・説明できる。 4. 自助具について、その概要を理解し説明・発表することができる。 5. 作業療法の対象となりやすい代表的な疾患・障害と日常生活活動障害の関連性を理解・説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	日常生活動作概論	日常生活活動Ⅰの振り返り ADL動作とは（科目の概要）		
2	基本動作・工程分析	臥位、坐位、立位、起居動作・介護ロボット		
3	ADL動作・工程分析	食事・食事ロボットについて		
4	ADL動作・工程分析	整容		
5	ADL動作・工程分析	更衣		
6	ADL動作・工程分析	入浴・トイレ・介護ロボット		
7	ADL動作・工程分析	コミュニケーション 移乗・移動・介護ロボット		
8	IADL動作・工程分析	外出、買い物、通勤通学 洗濯、掃除		
9	IADL動作・工程分析	調理 統合と解釈		
10	自助具	概要		
11	自助具	フィールドワーク 発表		
12	疾患別ADL	脳血管障害		
13	疾患別ADL	脊髄損傷		
14	疾患別ADL	運動器疾患 高齢期		
15	疾患別ADL	神経筋疾患 その他		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
【教科書】 ・クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法 第1版：藤井浩美ら（編）、中央法規、2014 【参考書】 ・作業療法ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学（ADL）：木之瀬隆（編）、メジカビュー社、2016		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会適応学 (IADL)		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	演習
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	砂原伸行、大嶋伸雄、 白瀬雅登 (実務経験者)
授業の概要				
講義や実技を通して、各疾患や障害の特性を踏まえたIADLや社会参加について学びます。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各疾患や障害の特性を理解したうえで、IADLの評価・練習を実施することができる。 社会参加の促進について、その援助方法やプロセスを理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	社会適応学 (IADL) とは		
2	調理活動	調理動作の特徴		
3	調理活動	脳卒中片麻痺、高次脳機能障害、関節リウマチに対する調理動作の支援		
4	調理活動	演習		
5	家事動作 (掃除・洗濯)	掃除・洗濯の特徴		
6	家事動作 (掃除・洗濯)	脳卒中片麻痺に対する掃除・洗濯支援		
7	家事動作 (掃除・洗濯)	演習		
8	育児	脊髄損傷者の育児支援		
9	外出	自動車運転		
10	外出	公共交通機関の利用		
11	外出	演習		
12	余暇活動	手工芸的活動、絵画・塗り絵、ゲーム		
13	余暇活動	園芸、外出・外食・旅行		
14	余暇活動	演習		
15	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学 (ADL) 改訂第2版		レポート課題	100.0%	実技の際は、動きやすい服装で臨んでください。

作成者: 護国堂秀之助

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅰ（総論）		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	護国堂・作田・吉野（実務経験有）
授業の概要				
身体障害に対する作業療法について、各疾患別に評価・訓練について教授する。また模擬患者を通して評価から治療の一連の流れについて理解する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。 疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。 各評価結果からICFにまとめることができる				
回	テーマ	内 容		
1	身体障害に対する基本的知識①	概論 身体障害作業療法の目的・枠組み		
2	身体障害に対する基本的知識②	治療原理・運動学習（演習）		
3	身体障害に対する基本的知識③	関節可動域へのアプローチ（演習）		
4	身体障害に対する基本的知識④	筋力へのアプローチ		
5	身体障害に対する基本的知識⑤	知覚再学習		
6	身体障害に対する基本的知識⑥	廃用症候群とその対応		
7	身体障害に対する基本的知識⑦	摂食嚥下障害へのアプローチ		
8	身体障害に対する基本的知識⑧	物理療法		
9	実践的知識・技術の教授①	臨床に必要な知識・技術の習得		
10	実践的知識・技術の教授②	臨床に必要な知識・技術の習得		
11	脳血管障害に対する作業療法①	疾患概要		
12	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価		
13	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法プログラム①		
14	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム②		
15	実習①	演習：模擬患者への介入		
16	実習②	実技：模擬患者への介入 フィードバック		
17	頭部外傷に対する作業療法	疾患概要・評価・作業療法プログラム		
18	脊髄損傷に対する作業療法①	疾患概要・作業療法評価		
19	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法プログラム		
20	実習③	模擬患者演習		
21	骨折に対する作業療法①	疾患概要（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎椎体骨折、上腕骨近位端骨折）		
22	骨折に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
23	実習④	模擬患者演習		
24	関節疾患に対する作業療法①	疾患概要（肩関節周囲炎、変形性関節症・RA）		
25	関節疾患に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	疾患概要		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
28	熱傷に対する作業療法	疾患概要・評価・作業療法プログラム		
29	実践的知識・技術の教授③	臨床に必要な知識・技術の習得		
30	実践的知識・技術の教授④	臨床に必要な知識・技術の習得		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第4版）、医学書院、2021		課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	

作成者:白瀬雅登

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅱ（各論Ⅰ）（含む吸引）		作業療法科/3年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	白瀬・石原（実務経験有）
授業の概要				
講義や症例検討などを通して、神経筋疾患、神経変性疾患、内部疾患、悪性腫瘍に対する基礎知識を身につけ、適切な評価及び治療法を理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
作業療法士としての基本姿勢や治療の原則、及びリスク管理をふまえたうえで、神経筋疾患、神経変性疾患、内部疾患、悪性腫瘍等に対する評価、治療の選択ができる。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖生理学	循環、代謝・内分泌		
2	解剖生理学	血液・免疫		
3	治療の原則	ボディメカニクス		
4	治療の原則	関節可動域、筋力		
5	治療の原則	筋緊張		
6	治療の原則	不随意運動、協調性		
7	神経筋疾患	ギランバレー症候群		
8	神経筋疾患	重症筋無力症、多発性硬化症		
9	実践的知識の教授			
10	実践的知識の教授			
11	実践的知識の教授			
12	神経変性疾患	Parkinson病		
13	神経変性疾患	Parkinson病		
14	神経変性疾患	Parkinson病		
15	神経変性疾患	脊髄小脳変性症		
16	神経変性疾患	脊髄小脳変性症		
17	神経変性疾患	筋萎縮性側索硬化症		
18	神経変性疾患	筋萎縮性側索硬化症		
19	内部疾患	心疾患		
20	内部疾患	心疾患		
21	内部疾患	呼吸器疾患概要		
22	内部疾患	呼吸器疾患（COPD）		
23	内部疾患	腎臓病		
24	吸引①	吸痰・吸引の基礎知識を身につける。 （リスク管理を中心に）※外部講師：看護学校教員		
25	吸引②	実技を通して、吸引の手順が理解できる。 ※外部講師：看護学校教員		
26	内部障害	糖尿病		
27	内部障害	糖尿病		
28	悪性腫瘍	がん		
29	悪性腫瘍	ターミナルケア		
30	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005		期末試験	100.0%	実技の際は動きやすい服装で臨んでください。

作成者:白瀬雅登

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害者福祉学Ⅲ（各論Ⅱ）		作業療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	白瀬雅登、他（実務経験あり）
授業の概要				
ケーススタディを通じて、病態、作業療法評価、治療についての基礎知識と実技を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。 疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。 各評価結果からICFにまとめることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	身体障害に対する基本的知識①	各疾患のリスク管理		
2	身体障害に対する基本的知識②	作業遂行アプローチの実際		
3	身体障害に対する基本的知識③	モデルケースに対する運動学習		
4	身体障害に対する基本的知識④	モデルケースに対する知覚再学習		
5	身体障害に対する基本的知識⑤	モデルケースに対する関節可動域・筋力へのアプローチ		
6	脳血管障害に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
7	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価1		
8	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法評価2		
9	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム		
10	脳血管障害に対する作業療法⑤	ケースの振り返り		
11	脳血管障害に対する作業療法⑥	再評価		
12	脊髄損傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
13	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法評価1		
14	脊髄損傷に対する作業療法③	作業療法評価2		
15	脊髄損傷に対する作業療法④	作業療法プログラム		
16	脊髄損傷に対する作業療法⑤	ケースの振り返り		
17	脊髄損傷に対する作業療法⑥	再評価		
18	骨折に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
19	骨折に対する作業療法②	作業療法評価		
20	骨折に対する作業療法③	作業療法プログラム		
21	骨折に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
22	変形性関節症に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
23	変形性関節症に対する作業療法②	作業療法評価		
24	変形性関節症に対する作業療法③	作業療法プログラム		
25	変形性関節症に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価		
28	末梢神経損傷・切断に対する作業療法③	作業療法プログラム		
29	熱傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
30	熱傷に対する作業療法②	作業療法評価・作業療法プログラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005		確認テスト	100.0%	

作成者:木下僚介

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神障害治療学Ⅰ（総論）		作業療法科／3年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
1. 精神障害者に対する作業療法士の役割や治療の視点を学ぶ。 2. 初期評価～治療までの精神科における一連のクリニカルリズニングを学ぶ。 3. 自分自身が感じたことや考えたことを言語化し、相手に伝える経験を積む。 4. 課題解決に向けて、自ら調べたり、能動的に他者と協力する経験を積む。				
授業終了時の到達目標				
1. 精神科における作業療法の治療構造や治療的な関わり方を説明することができる。 2. 評価から治療までの一連の流れを説明することができる。 3. 精神医学や心理学の知識も含めて、作業療法評価や治療について吟味することができる。 4. 事例のニーズを捉え、優先度を考えながら目標設定、治療計画の立案ができる。 5. 参考書やポートフォリオを活用したり、他者と意見交換したり協力し、課題解決に向けて主体的に取り組むことができる。				
回	テーマ	内 容		
1	精神医療と精神科作業療法	我が国の精神保健医療の現状と課題		
2	治療学概論	治療構造、基本的態度や関わり方		
3	治療学概論	回復モデル		
4	回復段階に応じた治療の視点	急性期・回復期		
5	回復段階に応じた治療の視点	維持期・地域移行支援（退院支援）		
6	回復段階に応じた治療の視点	生活期（地域生活支援、復職・就労支援）		
7	心理・精神療法の基礎	精神科で用いられる様々な精神・心理療法		
8	心理・精神療法の基礎	精神科で用いられる様々な精神・心理療法		
9	作業活動	場面設定・段階付け		
10	作業活動	構成的作業・投影的作業		
11	集団・場	集団・場の治療的視点、レクリエーション		
12	行動制限	隔離・身体拘束の現状と課題		
13	医学的視点と作業療法	統合失調症		
14	医学的視点と作業療法	気分障害		
15	医学的視点と作業療法	神経症性障害		
16	医学的視点と作業療法	アルコール使用障害		
17	医学的視点と作業療法	摂食障害		
18	医学的視点と作業療法	パーソナリティ障害		
19	医学的視点と作業療法	その他の疾患		
20	認知機能障害	認知機能リハビリテーション		
21	身体合併症	精神科における身体的アプローチ		
22	精神科作業療法の実際	作業療法士の様々な視点・考え方		
23	精神科作業療法の実際	SST・レクリエーション体験		
24	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討①		
25	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討②		
26	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討③		
27	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討④		
28	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討⑤		
29	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討⑥		
30	まとめ	作業療法士の視点・役割・展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・新宮尚人：精神機能作業療法学、第3版、医学書院。 ・矢谷令子：作業療法評価学、第3版、医学書院。 ・上野武治：精神医学、第4版、医学書院。		期末試験 課題・レポート ・グループ課題発表：10 ・振り返り＆確認テスト：15 ・その他の課題：5	70.0% 30.0%	・精神機能評価学で活用したポートフォリオを活用します。 ・教科書とほーとふお

作成者:木下徹介

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害治療Ⅱ (各論)		作業療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	木下徹介 (実務経験あり)
授業の概要				
精神障害者の症状や回復状態、ライフステージに沿った作業療法の視点や治療について学習する。国家試験で要される精神医学を含めた精神障害作業療法に関連した知識を整理する。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
- 精神科における作業療法の視点や役割、目的について理解し、説明できる。 - 事例情報から回復段階を読み取り、必要な評価手法や治療法を選択することができる。 - 精神科に必要な関連知識を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	精神障害と臨床医学①	統合失調症		
2	精神障害と臨床医学②	統合失調症		
3	精神障害と臨床医学③	気分障害		
4	精神障害と臨床医学④	認知症		
5	精神障害と臨床医学⑤	依存症		
6	精神障害と臨床医学⑥	てんかん		
7	精神障害と臨床医学⑦	神経症性障害、パーソナリティ障害		
8	臨床心理学①	防衛機制		
9	臨床心理学②	心理療法		
10	臨床心理学③	心理検査、学習理論		
11	精神障害に対する作業療法介入①	精神障害総論		
12	精神障害に対する作業療法介入②	集団作業療法		
13	精神障害に対する作業療法介入③	知的障害、自閉症スペクトラム障害		
14	統合失調症に対する作業療法①	症状、特徴		
15	統合失調症に対する作業療法②	介入の視点		
16	統合失調症に対する作業療法③	症例		
17	気分障害に対する作業療法①	症状、特徴		
18	気分障害に対する作業療法②	介入の視点		
19	気分障害に対する作業療法③	症例		
20	神経症性障害に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
21	神経症性障害に対する作業療法②	症例		
22	摂食障害に対する作業療法	症状・特徴、介入の視点 症例		
23	パーソナリティ障害に対する作業療法	症状・特徴、介入の視点 症例		
24	てんかんにに対する作業療法	特徴・発作・症状 介入の視点、症例		
25	認知症に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
26	認知症に対する作業療法②	症例		
27	依存症に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
28	依存症に対する作業療法②	症例		
29	発達障害に対する作業療法	特徴・発作・症状 介入の視点、症例		
30	精神科作業療法の視点	まとめと振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・長崎重信:作業療法ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改定第2版、2015. ・新宮尚人:精神機能作業療法学 第3版、2020:		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害治療学		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川等史(実務経験有)
授業の概要				
発達過程で障害がある子どもたちは多岐にわたる疾患がある。その多岐にわたる疾患への理解を深め、それらの作業療法評価や治療技術を学ぶ。更に時代や環境によって変化をする子どもたちの障害への対応や家族指導、子どもへの具体的な支援方法、作業療法士に求められる役割なども学んでいく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
身体障害、知的障害、発達障害と多岐にわたる発達過程での障害に対する作業療法評価及び治療について理解し、治療計画を立てることが出来る知識を身につける。また、子どもや家族への対人技術、作業療法士に求められる役割を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	発達過程作業療法の基礎	発達過程作業療法の歴史や理念を学ぶこと及び発達に障害がある子どもを評価・治療するための基礎知識を学ぶ。		
2	発達過程作業療法実践現場と実践課程	発達に障害がある子どもたちの作業療法の実践現場や実践する過程を学ぶ。		
3	発達過程作業療法の地域支援	発達に障害のある子どもたちの地域支援について学ぶ。		
4	新生児疾患(NICU対象児)	NICUでの作業療法対象児についての理解と作業療法の実際を学ぶ。重症児のリスク管理について学ぶ。		
5	脳性麻痺の作業療法の実際	脳性麻痺に対する作業療法評価—治療、家族指導、地域連携を学ぶ。		
6	知的障害に対する作業療法の実際	知的障害の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。地域での作業療法についても理解する。		
7	進行性筋ジストロフィーに対する作業療法の実際	進行性筋ジストロフィーの疾患の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
8	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価—治療の実際について学ぶ。		
9	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価—治療の実際について学ぶ。在宅でのケアについて学ぶ。		
10	骨関節疾患に対する作業療法の実際	先天性の骨関節疾患の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
11	二分脊椎に対する作業療法の実際	二分脊椎の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
12	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
13	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
14	学習障害に対する作業療法の実際	学習障害の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
15	注意欠如—多動性障害に対する作業療法の実際	注意欠如—多動性障害の理解と作業療法評価—治療の実際を学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福田恵美子編：標準作業療法 発達過程作業療法学 第2版 2014 医学書院		期末試験	100.0%	

作成者：砂原伸行

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高次脳機能障害治療学Ⅰ（総論）		作業療法科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	砂原伸行・能登真一（実務経験有り）
授業の概要				
ヒトの行動に深くかかわる中枢機能としての高次脳機能について、障害の理解・評価・治療までの実践を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高次脳機能障害の詳細を理解し、統合と解釈および治療プログラム立案ができるようになる				
回	テーマ	内 容		
1	総論	脳の働きと高次脳機能障害の概要 作業療法，リハビリテーションの歴史的変遷		
2	各論①	視空間認知障害の概要と半側空間無視の位置付け		
3	各論②	半側空間無視の特徴と関連障害の概要		
4	各論③	高次動作性障害の概要と失行症		
5	各論④	失行症に関連する行為・行動の障害		
6	各論⑤	遂行機能障害の特徴と前頭葉障害との関連		
7	各論⑥	思考，問題解決の障害及び前頭葉性行為障害と脳梁症候群		
8	各論⑦	行政的定義と注意障害，意識障害の概要		
9	各論⑧	記憶障害の概要		
10	各論⑨	視覚失認，地誌的障害の概要		
11	各論⑩	言語関連障害の概要（失語症，中枢性聴覚障害等）		
12	各論⑪	感情の障害及び社会的行動障害の概要		
13	各論⑫	その他の症候群（ゲルストマン症候群，パリント症候群等） 最近のトピックス及び社会的支援の概要		
14	各論⑬	高次脳機能障害例に対する作業療法実践の流れ		
15	各論⑭	高次脳機能障害例に対する治療の枠組みと理論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・鈴木孝治 高次脳機能障害作業療法学 第3版 作業療法学ゴールドマスターテキスト メディカルビュー		期末テスト	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能治療学Ⅱ (各論)		作業療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	護摩堂秀之助(実務経験あり)
授業の概要				
高次脳機能障害に対する基本的な作業療法について理解する。 【実務経験:病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
① 障害特性について説明できる。 ② 障害ごとの予後について説明できる。 ③ 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。				
回	テーマ	内 容		
1	高次脳機能障害とは	症状と脳局在		
2	高次脳機能評価の概要①	評価の流れ、組み立て方、画像の見方		
3	高次脳機能評価の概要②	観察・面接、各種神経心理学的検査、結果の解釈		
4	意識・情動障害への介入	覚醒レベル、アウェアネスの向上 薬物療法、認知行動療法		
5	注意障害への介入	直接刺激法、行動条件付け法、戦略置換法		
6	半側空間無視の特徴	病巣と症状、関連症状		
7	半側空間無視の評価・介入	スクリーニング検査、BIT、CBS 視覚走査訓練、Spatiomotor Cueing、プリズム順応		
8	認知の障害①	視覚失認、聴覚失認、触覚失認の評価・介入		
9	認知の障害②	地誌的障害、構成障害の評価・介入		
10	言語障害への介入	失語症とは、失語症の評価・介入		
11	記憶障害への介入	errorless learning、間隔伸長法、残存記憶の活用 代償手段を用いた支援		
12	思考障害への介入	思考障害・問題解決の障害への介入		
13	行為の障害への介入①	抑制障害(運動維持困難、pacing障害、保続)への介入		
14	行為の障害への介入②	失行症への介入		
15	遂行機能障害への介入	自己教示法、手がかりの活用、環境調整		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ゴールドマスター高次脳機能障害作業療法 学 第3版 鈴木孝治 編集 メジカル ビュー社 病気がみえる vol.7 脳・神経 医療情 報科学研究所		出席率 課題	10.0% 90.0%	

作成者: 丁子雄希

科目名		学科/学年	年度/前期	授業形態
高齢期障害治療学		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	丁子雄希(実務経験者)
授業の概要				
高齢期領域の作業療法に必要な、高齢者の社会的背景や心身機能の特徴を知り、介護予防に資する作業療法支援や、認知症に対する作業療法支援について学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 我が国における高齢者の社会的背景と個人の生活歴の分析方法がわかる。 2. 心身機能の老化について説明できる。 3. 高齢者における、生涯発達を前提とした作業療法支援について概要を説明できる。 4. 各種認知症の症状や、作業療法支援を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	高齢期作業療法の基礎①	高齢期の身体的特徴、おこりやすい症候		
2	高齢期作業療法の実践①	評価、目標設定、治療・援助計画および実施、リスク管理		
3	高齢期作業療法の基礎②	高齢期の心理的特徴、おこりやすい症候		
4	高齢期作業療法の実践②	評価、目標設定、治療・援助計画および実施、リスク管理		
5	一般高齢者の作業療法	虚弱高齢者のケース①		
6	一般高齢者の作業療法	虚弱高齢者のケース②		
7	一般高齢者の作業療法	寝たきり高齢者のケース①		
8	一般高齢者の作業療法	寝たきり高齢者のケース②		
9	介護者へのサポート	高齢者と介護者支援		
10	高齢者への身体アプローチ①	模擬事例①		
11	高齢者への身体アプローチ②	模擬事例②		
12	高齢者への身体アプローチ③	模擬事例③		
13	高齢期の精神系疾患	せん妄、幻覚妄想状態、うつ病、神経症、人格障害		
14	認知症高齢者に対する作業療法	認知症の分類と特徴		
15	認知症高齢者に対する作業療法	評価とその目的		
16	認知症高齢者に対する作業療法	アクティビティと活動形態、様々な治療法		
17	認知症高齢者に対する作業療法	軽度認知機能障害(MCI)の高齢者のケース		
18	認知症高齢者に対する作業療法	中等度の認知症高齢者のケース		
19	認知症高齢者に対する作業療法	中等度の認知症高齢者のケース		
20	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症高齢者のケース		
21	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症高齢者のケース		
22	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症から寝たきりに移行したケース		
23	認知症高齢者へのアプローチ①	模擬事例①		
24	認知症高齢者へのアプローチ②	模擬事例②		
25	認知症高齢者へのアプローチ③	模擬事例③		
26	高齢者支援の実際	病院・施設・在宅		
27	高齢者支援の実際	病院・施設・在宅		
28	高齢期作業療法の実際②	高齢者疑似体験①		
29	高齢期作業療法の実際②	高齢者疑似体験②		
30	高齢期作業療法の実際③	高齢期のレクリエーション①		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
松房ら編:標準作業療法学, 高齢期作業療法【第4版】, 医学書院		課題・レポート(丁子)	70.0%	
		課題・レポート(木下・白瀬)	20.0%	
		課題・レポート(外部講師)	10.0%	

作成者：中川等史

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境論		作業療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川等史（実務経験あり）
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格レベルまでの知識を身に着ける【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格				
回	テーマ	内 容		
1	第1章	よく出る問題とテキスト確認		
2	第1章	よく出る問題とテキスト確認		
3	第2章	よく出る問題とテキスト確認		
4	第2章	よく出る問題とテキスト確認		
5	第3章	よく出る問題とテキスト確認		
6	第3章	よく出る問題とテキスト確認		
7	第4章	よく出る問題とテキスト確認		
8	第4章	よく出る問題とテキスト確認		
9	第5章	よく出る問題とテキスト確認		
10	第5章	よく出る問題とテキスト確認		
11	第6章	よく出る問題とテキスト確認		
12	第6章	よく出る問題とテキスト確認		
13	予想問題①	試験・解答・解説		
14	予想問題②	試験・解答・解説		
15	予想問題③	試験・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・東京商工会議所編 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト ・成田すみれ監修 福祉住環境コーディネーター2級問題集 成美堂出版		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

作成者:梶直美

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法論		作業療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	梶直美 (実務経験あり)
授業の概要				
地域作業療法の基礎と背景を知り、医学モデルと生活モデルの違いを理解する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
生活モデルが1つと共通した考えをもつことと「活動の重要性」を再認識する。 生活行為向上マネジメントを深く学ぶことにより、作業療法アセスメントとプログラム立案技術を身に付ける。				
回	テーマ	内 容		
1	第1章 地域作業療法の基礎と背景	地域を知る		
2		地域リハビリテーションの流れをとらえる		
3		地域作業療法を考察する		
4	第2章 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携	制度・施策とのつながりを知る		
5		社会生活支援を理解する		
6		多職種連携と協働を理解する		
7	第3章 地域作業療法の実践	地域作業療法の枠組みを理解する		
8		住環境と地域づくりを考察する		
9		支援プログラムとマネジメントを学ぶ		
10		地域作業療法の実践の場を知る		
11	第4章 実践事例	校内の環境を測定し、方眼紙に記録する		
12		校内の環境を測定し、方眼紙に記録する		
13		睡眠		
14		介護老人保健施設		
15		介護老人保健施設		
16		地域包括支援センター		
17		地域包括支援センター		
18		車の運転		
19	訪問作業療法			
20	訪問作業療法			
21	訪問作業療法			
22	訪問作業療法			
23	訪問作業療法			
24	訪問作業療法			
25	訪問作業療法			
26	通所リハ支援プログラムとマネジメント	MTDLP①		
27		MTDLP②		
28		MTDLP③		
29		MTDLP④		
30		MTDLP⑤		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新作業療法学講座 地域作業療法学 小林法一他 医歯薬出版 図説 訪問リハビリテーション 生活再建とQOL向上 訪問リハビリテーションセンター消雑誌 三輪書店		課題・レポート	80.0%	
		確認テスト	20.0%	

作成者:梶直美

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
職業関連活動学（就労支援）		作業療法科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶直美（実務経験あり）
授 業 の 概 要				
就労支援の実践事例を通して地域で働く作業療法士の役割りと内容を理解する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
就労支援に必要な作業療法士の役割りと必要な支援を説明で 両立支援のノウハウを理解する				
回	テ ー マ	内 容		
1	総論	職業リハビリテーションの新たな流れ ゴールドマスターp223～p231		
2		多様な働き方		
3		障害者雇用（企業就労）		
4	就労評価	就労の評価とは		
5		レディネステスト		
6		GATB		
7		ワークサンプル法・幕張式検査法		
8		モダプツ法		
9		性格検査		
10	各論	就学・復学支援		
11		高次脳機能障害		
12		精神機能障害		
13	両立支援	発表		
14		発表		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
長崎重信監修 ゴールドマスター作業療法 概論第3版 メジカルビュー社 小林法一編集 地域作業療法学 医歯薬出版 能登真一編集 作業療法評価学第3版 医学書院		レポート 発表	80.0% 20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床見学実習 I		作業療法科／1年	2025／前期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		1単位（40時間）	必須	中川・白瀬・木下・護摩堂・竹内（実務経験有）
授業の概要				
病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 ①作業療法士になることへの自己動機を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 ③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における作業療法部門の位置づけを理解する。⑤作業療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション（適切な挨拶・言葉遣い等）がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。				
回	テーマ	内 容		
1		令和7年8～9月頃 1 週間（40時間）の病院・施設での実習		
2		感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、ディリー ノートの提出、出欠、実習 態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		作業療法科／2年	2025／前期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		1単位（40時間）	必須	木下・中川・白瀬・護摩堂・竹内（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、作業療法士の仕事内容を理解する。 施設・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業療法の一連の流れを見学し、作業療法士の業務内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。				
回	テーマ		内容	
1	令和7年8～9月頃、病院・施設での実習予定（期間：5日間 40時間）		感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
地域作業療法実習		作業療法科 / 4年	2025 / 前期	実習
授 業 時 間	回 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	担 当 教 員
		1単位 (40時間)	必須	中川・木下・白瀬・ 護摩堂・竹内 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
実習の成果を踏まえ、地域作業療法の体験をすることで、理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
・地域作業療法の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者や対象者と適切な関係をとれる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	令和7年5月7日～6月24日 令和7年7月1日～8月19日 内5日間	新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更する場合がある。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
158				
教科書・教材		評 価 基 準	評 価 率	そ の 他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価学実習ゼミ		作業療法科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	護摩堂・白瀬・中川・木下・竹内 （実務経験有）
授業の概要				
各分野での作業療法評価実習に必要な評価方法の復習【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
身体障害、精神障害、発達分野での評価実習に必要な評価方法を具体的に実習しながら身に着ける				
回	テーマ	内 容		
1	身体機能評価実技試験	ROMテスト (OSCEにて評価)		
2	身体機能評価実技試験	MMT (OSCEにて評価)		
3	身体機能評価実技試験	STEF (OSCEにて評価)		
4	身体機能評価実技試験	SIAS (OSCEにて評価)		
5	身体機能評価実技試験	Brunstrom Stage Test (OSCEにて評価)		
6	身体機能評価実技試験	感覚検査 (OSCEにて評価)		
7	身体機能評価実技試験	バランス・協調性・失調症検査 (OSCEにて評価)		
8	ADL検査	ADL (FIM 他)		
9	認知機能検査	HDS-R, MMSE		
10	高次脳機能検査	記憶検査		
11	高次脳機能検査	失行失認検査		
12	高次脳機能検査	BIT, BADS		
13	精神機能評価	精神機能評価		
14	精神機能評価	精神機能評価		
15	発達機能評価	発達機能評価 (GMFM・GMFCS・MACS・遠城寺式・DTVP)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法評価学 医学書院		課題 実技試験 出席率	20.0% 70.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰゼミ		作業療法科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬・木下・中川・護摩堂・竹内（実務経験有）
授 業 の 概 要				
OSCEに基づいた評価・介入の実技練習・試験を行い、作業療法士としての技術・知識・態度を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
作業療法を実施する上での技術・知識・態度の確認を行い、基礎的臨床能力を客観的に確認する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション			
2	オリエンテーション	実習生としての心得		
3	基礎知識の確認	解剖学・運動学・生理学		
4	評価	関節可動域測定		
5	評価	筋力測定		
6	評価	実技試験		
7	評価	BRS		
8	評価	SIAS		
9	評価	実技試験		
10	介入	起居		
11	介入	起立		
12	介入	実技試験		
13	介入	移乗		
14	介入	歩行		
15	介入	実技試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実技試験	100.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱゼミ		作業療法科/4年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・木下・白瀬・ 護摩堂・竹内(実務経験有)
授 業 の 概 要				
臨床実習Ⅰまでに学んだ全分野に関して、評価技能とプログラム立案ならびに臨床応用を確認する				
授業終了時の到達目標				
最終実習に必要な知識技能の確認と、作業療法全般の理解を深める				
回	テ ー マ	内 容		
1	実習オリエンテーション	オリエンテーション		
2	作業療法評価	ROM・MMT・BRS・SAIASについて説明		
3	ROM	実技練習		
4	MMT	実技練習		
5	BRSテスト	実技練習		
6	SAIA検査	実技練習		
7	作業療法介入技法	起き上がり、着替え上衣・下衣について説明		
8	起き上がり	実技練習		
9	着替え上衣・下衣	実技練習		
10	急性期作業療法	評価～治療の実際(講義)		
11	回復期作業療法	評価～治療の実際(講義)		
12	地域での作業療法	評価～治療の実際(講義)		
13	神経発達学的治療	評価～治療の実際(講義)		
14	OSCE	実技練習		
15	OSCE	実技練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実技試験 筆記試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習Ⅰ		作業療法科／2年	2025／後期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		2単位（80時間）	必須	護摩堂・木下・中川・白瀬・竹内（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り評価を体験することにより、評価測定の方法や意味を理解する。 施設・病院等で評価実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業療法の一連の流れと評価実技を経験し、作業療法士としての仕事内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。				
回	テーマ		内容	
1	令和8年3月中旬より病院・施設での実習		コロナウイルス感染拡大の場合、学内実習への変更や実習時期や期間の変更があります。	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		実習後セミナー発表	30.0%	
		課題提出	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習Ⅱ		作業療法科／3年	2025／後期	実習（一部、学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		4単位（160時間）	必須	白瀬・木下・中川・竹内（実務経験有）
授 業 の 概 要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 施設・診療所・病院等で実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療計画の立案までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	令和7年9月頃より実習（160時間）の予定	新型コロナウイルス感染状況により実習中止の場合、期間変更もしくは、学内実習への変更があります。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		実習後セミナー発表	30.0%	
		課題・提出物	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		作業療法科／3年	2025／後期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		7単位（280時間）	必須	白瀬・木下・中川・護摩堂・竹内（実務経験有）
授業の概要				
評価実習に引き続き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 また、作業療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。 施設・診療所・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療の実施までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。				
回	テーマ	内 容		
1	令和7年11月ごろより病院・施設実習（280時間）	新型コロナウイルス感染拡大により実習中止の場合、実習期間の変更、学内実習への変更があります。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		実習後セミナー発表	30.0%	
		課題・提出物	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		作業療法科／4年	2025／前期	実習 (一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(280時間)	必須	中川、木下、白瀬、 護摩堂、竹内(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰの成果を踏まえ、作業療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・作業療法の一連の流れのうち、評価から再評価までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者や対象者と適切な関係をとれる。				
回	テーマ	内 容		
1	令和7年5月7日～6月24日 令和7年6月30日～8月19日	感染拡大により、令和2年5月1日 文科省 事務連絡に沿って、実習中止などに対し、学内実習若しくは、期間変更等に対応する。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	